

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	あやかりの杜滞在型施設活用事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	長期滞在型宿泊施設やキャンプ場等がある「あやかりの杜」を活用し、野外活動や沖縄の自然、伝統文化の学習などを実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,000	5,000	5,000	5,000	5,000
		(b) 予算現額	4,000	5,091	5,000	5,000	5,000
		(c) 増減額(b-a)	0	91	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		4,000	5,091	5,000	5,000	5,000
	B. 執行済額		3,999	5,091	5,000	4,843	4,997
	うち交付金充当額		3,199	4,073	3,999	3,874	3,997
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	96.9%	99.9%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	体験型交流事業	目標	(17事業)	(18事業)	(14事業)	(14事業)	
		実績	17事業	8事業	11事業	14事業	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあったが、地域団体や企業の協力もあり14事業を開催することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	体験交流人数	目標	()	(550人)	(580人)	(580人)	()
		実績		294人	242人	508人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	新型コロナウイルス感染者が減少していくにつれ受講者が増えたが、新型コロナウイルス感染者拡大時は当日キャンセルが多く目標人数に達しなかった。					

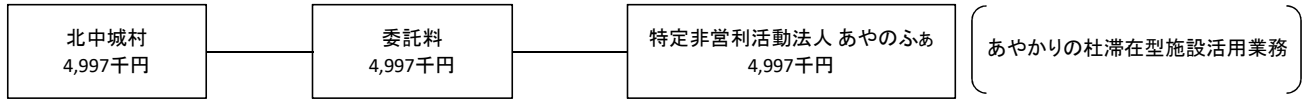
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の年代に若干偏りがあり、20代や30代の参加者が少ない傾向にある。 新型コロナウイルス感染症の影響か、直前のキャンセルが多々あった。 キャンセル待ちが多い講座があり希望者が受講できない状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSの活用を見直し、20~30代に周知しやすい環境にする必要がある。 感染防止対策や感染拡大予防ガイドラインを徹底し安心して講座を受講できる環境であることを周知する必要がある。 講座の定員や講座回数を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

- 募集チラシやポスター等にSNSのQRコードを掲載し、参加者や若年層の目にとまるような工夫を行う。
- 感染対策を取りつつ開催日の数日前に参加の是非の連絡や、キャンセル待ちの人数枠を増やし、補充受講者の確保を行う。また、ポスターSNSを活用し感染防止対策や受講状況がわかりやすい周知活動に取り組む。
- 定員や講座の回数を沖縄県や感染拡大予防ガイドラインの動向に注視しながら柔軟に対応していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,997	4,997	3,997	1,000	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約した事業者は本事業開催施設の管理、運営を行っており、本事業を行うにあたり他事業者を導入した場合、施設利用費が別途かかるという理由から、地方自治法施行令第167条の2第1項2号に基づき随意契約を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託事業者は、施設の指定管理者であり、当該施設に熟知していることを動案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○不用額が事業費の5%以内であることから、適正な規模であったと考える。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用や用途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。

市町村名		北中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	北中城まつり活性化事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部署名	企画振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進	
事業内容	「青年エイサーまつり」「北中城まつり」を開催するにあたり、沖縄県の観光資源となる伝統芸能をメインとしたプログラムをおこない、沖縄県の文化的特殊性を武器に観光誘客を図る。観光資源を長期的に活用できるよう、担い手育成や伝統芸能の継承を実施しながらまつりをとおして魅力を発信する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	11,657	16,533	16,744	16,861	16,927
	(b) 予算現額	12,719	16,533	465	18,838	15,830	
	(c) 増減額(b-a)	1,062	0	▲ 16,279	1,977	▲ 1,097	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	12,719	16,533	465	18,838	15,830	
	B. 執行済額	12,066	10,324	463	10,663	15,933	
	うち交付金充当額	9,652	8,259	370	8,530	12,746	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	94.9%	62.4%	99.6%	56.6%	100.7%	
予算の状況の説明	まつり活性化委員会総会でひまわりIN北中城の開催終了が決定したため補助金精算時に1,097千円減額し、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	まつりの開催支援 ・青年エイサーまつり: R4年8月～9月開催 ・北中城まつり: R4年8月～9月開催		目標 (開催支援)	()	(開催支援)	(開催支援)	
			実績	開催支援	開催支援	開催支援	
		目標 ()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明	「北中城村青年エイサーまつり」及び「北中城まつり」について、新型コロナウイルスの感染者数の減少時期が不透明だったため当初予定していた8～9月の時期から変更し、10月8日と10月9日の開催となったが、計画通りの支援を実施できた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	北中城村青年エイサーまつり来場者数		目標 ()	()	(7,400人)	(6,400人)	()
			実績		5,774人	21,826人	
	北中城まつり来場者数		目標 ()	()	(24,000人)	(24,000人)	()
		実績		9,164人	25,806人		
進捗状況説明	・北中城村青年エイサーまつり及び北中城まつりを開催し、来場者数はエイサーまつり、北中城まつり共に目標値を大きく達成することができた。						

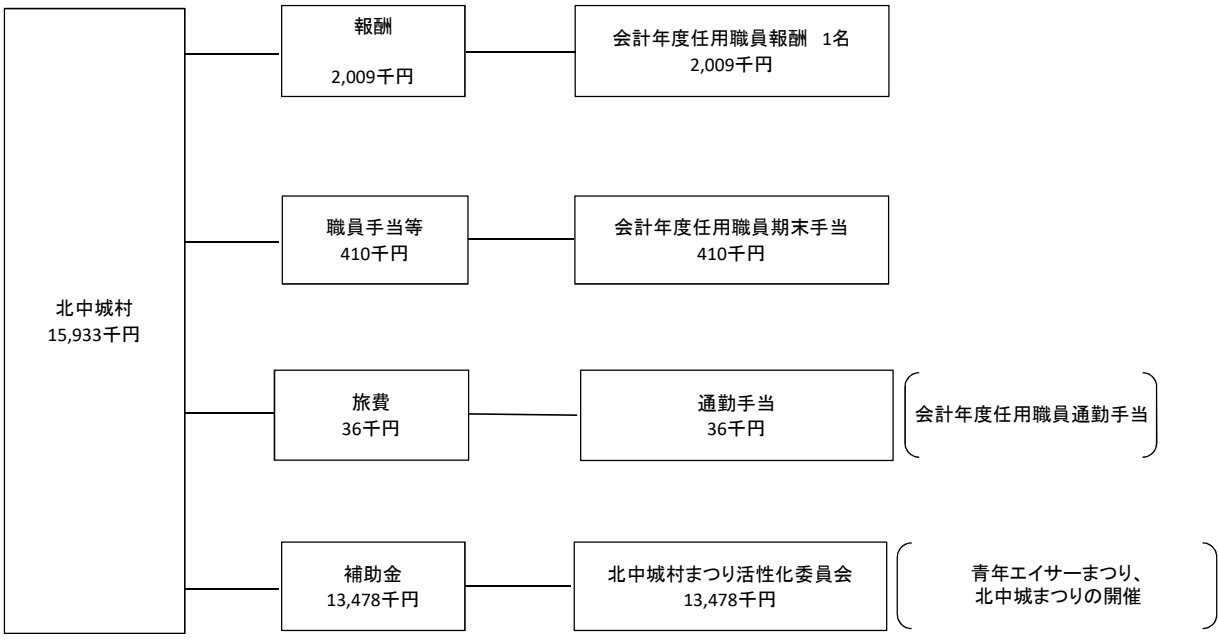
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・北中城村青年エイサーまつりについて、来場者が多く収容できる会場に変更したことから当初の目標値を大きく上回った。 ・3年ぶりにまつり会場で誘客開催となり、目標値を大きく超える来場者数となった。 一方で、両まつりに共通して、来場者用臨時バスの運行の遅延や会場周辺警備の不足、ボランティア動員の安全性の配慮等、まつり運営における課題が浮き彫りになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時バスにおいて20人乗りのマイクロバスや10人乗りハイエースでの運行の改善による来場者の増加を促進する。 ・会場周辺警備を増員し安全性を高め、来場者の満足度向上を図る。

今後の取り組み方針

- ・大型観光バスをチャーターし利用者の待ち時間の解消を図る。
- ・駐車場・団地周辺の雑踏警備を警備会社へ委託し安全性の確保及び警備の質の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
15,933	15,933	12,746	3,187	0



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先のまつり活性化委員会は、村内各種団体に構成され、まつりを主催することから、妥当であったと判断する。 ○まつり総事業費の10%を同委員会に負担しており、補助要綱に則り妥当であったと判断する。 ○費目・用途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	観光誘客プロモーション事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い管区の推進		
事業内容	観光誘客を図るため、観光情報・案内等のサービスの提供、ウェブやSNS等ICTを活用したプロモーションの強化などコロナ禍でも情報発信を行えるDXの推進を図る。県外でのイベントの参加や独自イベントを開催し誘客を施す。観光情報アクセスポイントとしてFree Wi-Fiを各所に設置して、観光客の情報収集に係る利便性を高めるとも利用者情報のデータ収集をおこなう。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	44,531	46,307	43,440	45,649	53,300
	(b) 予算現額	44,531	46,307	43,368	45,649	49,907	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲72	0	▲3,393	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	44,531	46,307	43,368	45,649	49,907	
	B. 執行済額	43,951	45,019	41,156	43,334	49,664	
	うち交付金充当額	35,160	36,015	32,924	34,667	39,731	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.7%	97.2%	94.9%	94.9%	99.5%	
予算の状況の説明	委託料の改定により事業費が2,354千円減額及び会計年度任用職員の療養休暇により報酬等が1,178千円減額、公用車関係で燃料費と賃借料の精算で104千円の減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	観光イベントでのプロモーション	目標	(国内:1回 国外:1回)	(国内:1回)	(国内:1回)	(国内:1回)	
		実績	国内:2回 国外:1回	国内:1回	国内:1回	国内:1回	
	インターネット上での観光案内の強化	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	観光情報アクセスポイント運営	目標	()	()	()	(実施)	
実績					実施		
ビックデータ収集・分析による観光動向調査	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 観光イベントでのプロモーションについて神奈川県で開催されたイベントにて、本村ブースを設け観光情報の発信を行った。 インターネット上での観光案内の強化についてSNSでの観光情報の発信やホームページの情報の充実させた。ホームページのリニューアルを行い、多言語翻訳機能を利用しインバウンド客にも案内できるようなWeb発信の強化をおこなった。 観光情報アクセスポイントにおいて村内の公共施設や観光施設、飲食店等に設置している公衆無線LANの管理運営を行った。 ビックデータ収集・分析による観光動向調査についてビックデータ取得及び分析については、予定通り実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	PRブース来場者数	目標	()	(1,700人)	(1,700人)	(1,700人)	()
		実績		約2,000人	2,485人	2,236人	
	観光案内ページの閲覧数	目標	()	()	()	(14,000回)	()
		実績				159,361回	
Free Wi-Fiアクセス数	目標	()	()	()	(8,500/月)	()	
	実績				1,854/月		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> PRブースについては神奈川県で開催されたイベントに参加し特産品紹介や観光冊子、ノベルティグッズ配布によるPR、ゆるキャラ出演等を行い目標値以上の来場者数となった。 観光案内ページ閲覧数についてはホームページ閲覧数向上のためSNS登録者の増加促進によるホームページへの誘導を行い閲覧を促した。イベントや事業所のページを充実させプロモーションを行った。 Free Wi-Fiアクセス数については新型コロナウイルス感染症の影響により、村内大型商業施設、観光施設、宿泊施設の国内外観光客の利用が減少し、目標値の2割程度にとどまった。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(PRブース来場者数) 本村の特産品サンプルを展示や観光地紹介動画を活用しPRをおこなった。観光冊子やノベルティグッズの配布数を増やしたことで目標を上回る来場者数となった。	(PRブース来場者数) 冊子やグッズのPRで認知度向上のPRをおこなったが、来訪してもらえるかは不透明なため、実際に来場者を本村に誘客できるようなPRを図る。
	(観光案内ページの閲覧数) 観光情報発信強化のためポータルサイトを更改しWEB情報の充実を図ることで目標を上回る閲覧数となった。閲覧後の離脱率を下げるのがホームページの課題となっている。	(観光案内ページの閲覧数) 閲覧者の情報をデータ化してホームページの離脱対策の洗い出しをおこなう。
	(Free Wi-Fiアクセス数) 新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動制限のため、Free Wi-Fiへのアクセス減少が顕著に表れている。また、Free Wi-Fiは無料で使えるメリットがある一方、セキュリティ上の危険性や、使いたい場所が使えないという問題が生じるなどのデメリットもある。	(Free Wi-Fiアクセス数) 新型コロナウイルス対策の行動制限緩和に伴い、訪日外国人観光客の増加が期待される一方、Free Wi-Fi等のインターネット通信環境の整備や観光客の動態統計分析が今後必要不可欠となる。最近では、民間による格安で通信速度も速く、データ通信量も無制限というインバウンド向けWi-Fiルーターのレンタルサービスの充実や、モバイル空間統計等から観光客の分析が可能となったため、違った視点での受入環境整備の充実を図る必要がある。

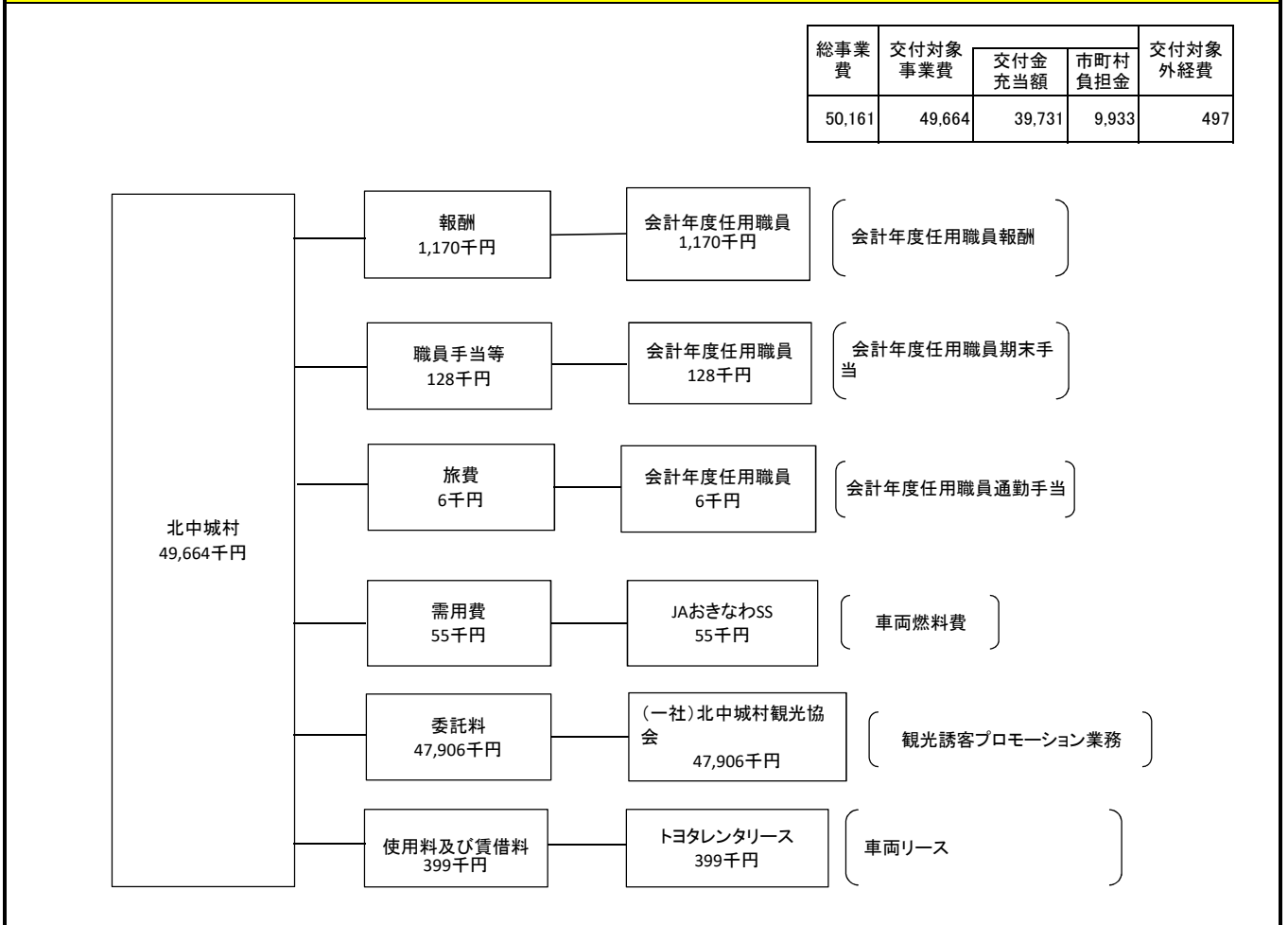
今後の取り組み方針

(PRブース来場者数)
体験型コンテンツの充実を図り、PRブースでの案内や商品予約受付をおこなうことで現地誘客まで誘導できるようなPRを実施する。

(観光案内ページの閲覧数)
ポータルサイト閲覧者の閲覧ページ内容・検索情報をもとに、ニーズに合ったページの作成等で情報発信をおこなうことでサイト離脱率の減少及び閲覧数増加を促す。

(Free Wi-Fiアクセス数)
これまで取り組んできたFree Wi-Fi事業で得られていた観光客の動態統計については、Googleマイプロフィールを活用し、観光客受入環境の充実を図っていきます。また、地域の独自性を売りにした着地型旅行商品の開発や観光ガイド等の観光人材の養成により、今後増加が期待される訪日外国人観光客を対象としたインバウンド需要の取り込みを増加させ、沖縄観光需要回復を図っていきます。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当該業務は関係各所との連携が不可欠であり、業務の性質から地方自治法施行令第167条の2第1項2号に基づき随意契約を行っており、妥当であったと判断する。 ○不用額が事業費の0.5%であることから、適正な規模であったと考える。 ○費目・用途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	コミュニティバス実証事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ウ		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成30～令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	人と環境に優しいまちづくりの推進		
事業内容	村内への観光誘客を図り、観光客をはじめとする交通弱者の利便性向上を図るため、コミュニティバスによる実証実験を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		5,505	17,094	25,589	23,844	39,281
			5,301	16,790	29,537	23,844	31,525
			▲204	▲304	3,948	0	▲7,756
			0	0	0	0	0
		B. 執行済額	5,253	16,235	29,112	24,964	30,147
		うち交付金充当額	4,202	12,987	23,289	19,971	24,118
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	99.1%	96.7%	98.6%	104.7%	95.6%
		予算の状況の説明	・ルート拡大での運行開始が遅れたことによるコミュニティバス運行业務委託料を6,704千円減額補正した。 ・車両リースに係る使用料及び賃借料を734千円減額補正した。				
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	運行日数	目標	()	(350日以上)	(350日以上)	(350日以上)	
		実績		363日	365日	365日	
	公共交通会議の開催	目標	()	(3回)	(1回)	()	
		実績		2回	3回		
運行ルート	目標	()	()	()	(2ルート)		
	実績				2ルート		
	達成状況説明	・事故や災害等もなく、計画通り運行日数を達成することができた。 ・11月7日より、運行ルートを1ルートから2ルートに増やし、利用者の利便性向上に務めることができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	年間利用者数	目標	()	(22,000人)	(5,000人)	(5,500人)	()
		実績		4,712人	6,986人	11,845人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	年度当初は、観光客の周遊を想定した1ルートで運行していたが、令和4年11月7日より、観光客の利用促進に加え、地域住民の利便性向上に向けた運行ルートへの見直しを行い、運行ルートを2ルートに増やしたことで、利用者数は大幅に増加し、成果目標を達成することができた。					

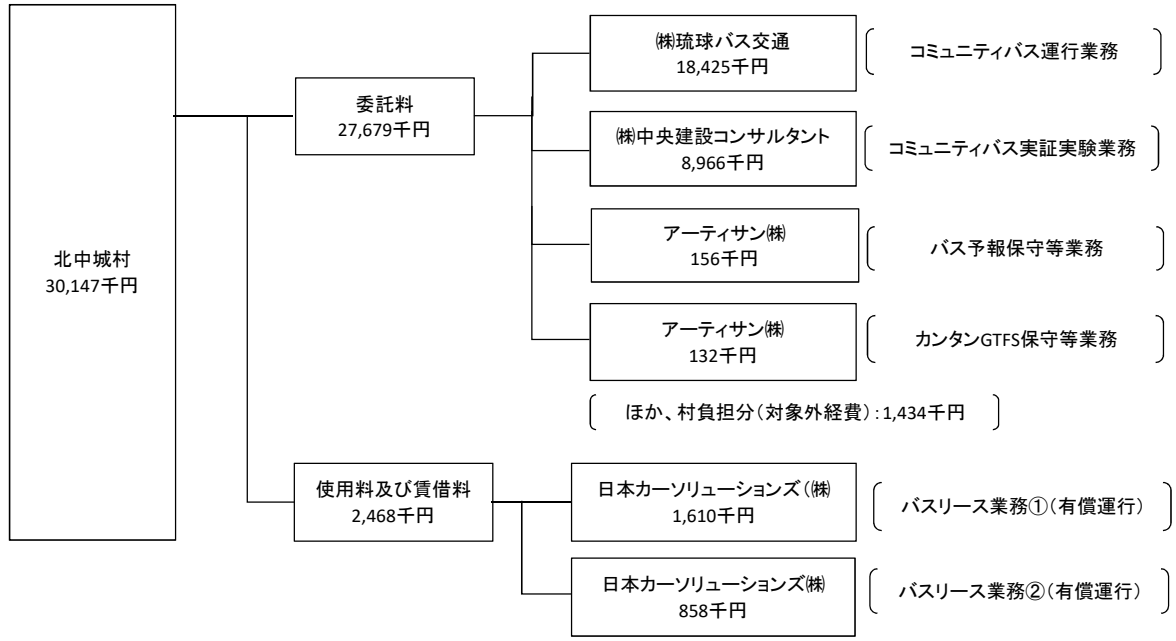
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 運行ルート拡大にあたり、村広報誌や村HPでの周知に加え、地域住民との意見交換や全世帯へのチラシ配布による周知強化に努めたことで、一般利用者(地域住民)の利用が増加傾向となったことが、目標達成の要因と考えられる。 新型コロナウイルス感染症の影響に落ち着きが見られたことも利用者数増加の一因と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ルート拡大による運行及び周知強化により利用者数は増加傾向にあるものの、住民との意見交換会の中で、ルート設定が複雑でわかりにくい、バス停の位置の変更、追加の要望が地域住民より多く寄せられたことから、分かりやすいルート設定、地域住民が利用しやすいバス停の位置変更等を検討する必要がある。 県内への観光客が戻りつつある中、観光客の利用促進についても推進する必要がある。

今後の取り組み方針

・地域住民との意見交換会による地域住民ニーズに対応するため、バス停の位置及びルートの見直しを行い、更なる利用者の利便性の向上に取り組む。
 ・観光客の利用促進を図るため、関係機関及び企業等と連携したコミュニティバスの運行情報の発信に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
31,581	30,147	24,118	6,029	1,434



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実証事業に係る委託業者は、指名競争入札の手続きを経て選定しており、妥当であったと考える。 ○不用額は、事業費の10%以内であり、適正な規模であったと考える。 ○費目及び用途については、事業完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	ウェルネスツーリズム推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	令和4~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	<p>本村の女性平均寿命3期連続日本一という健康長寿ブランドを活かしたウェルネスプログラムの開発、ウェルネスツーリズムを推進することで、村のPRとともに観光誘客を図る。</p> <p>また、村民についても、今後も健康長寿ブランドを維持することを目的に定期的なウェルネスワークショップを開催し、健康づくりの啓発を図りながら、健康長寿村の一員としての誇りを醸成する。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,225				
		(b) 予算現額	5,864				
		(c) 増減額(b-a)	▲2,361				
		(d) 繰越額	0				
	A. 計(b+d)		5,864				
	B. 執行済額		5,794				
	うち交付金充当額		4,634				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		99.0%				
予算の状況の説明		2,361千円の減額は、会計年度任用職員の退職に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	ウェルネスイベントの開催	目標	(2回)	()	()	()	
		実績	2回				
	ウェルネスワークショップの開催	目標	(5回)	()	()	()	
		実績	5回				
	ウェルネスモニターツアー開発及び実施	目標	(3回)	()	()	()	
実績		3回					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルネスイベントは荒天による延期はあったものの、ヨガイベント1回、フライイベント1回、計2回と当初計画どおり実施した。 ・ウェルネスワークショップは参加希望者が多く、早々に定員に達し、計画どおり5回開催することができた。 ・ウェルネスツアー3商品(日帰りツアー、1泊2日ツアー、2泊3日ツアー)を開発し、旅行関係者をモニターとして招いたモニターツアーも計画どおり3回実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	ウェルネスイベント総参加者数	目標	()	(300人)	()	()	()
		実績		176人			
	ウェルネスワークショップ参加者数	目標	()	(75人)	()	()	()
		実績		75人			
	ウェルネスモニターツアー総参加者数	目標	()	(30人)	()	()	()
		実績		24人			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルネスイベントについては当初申し込みでは259人だったが、荒天による日程延期の影響もあり、176人の参加にとどまった。 ・ウェルネスワークショップは参加希望者が多く早々に75人の定員に達し、目標を達成した。 ・モニターツアーには旅行関係者を招聘し、24人が参加。目標の30人には満たなかったが概ね達成できたと考える。 						

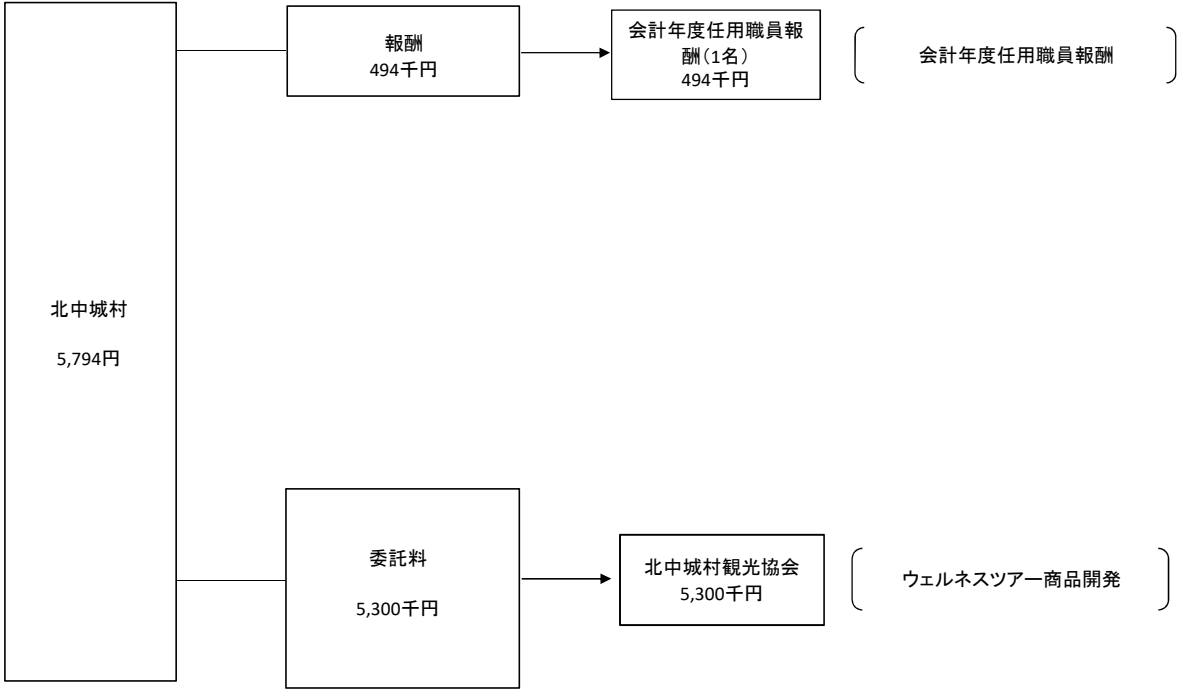
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(ウェルネスイベント総参加者数) 屋外イベントは天候に左右されるため、雨天時による日程変更が目標としていた参加者数に達しなかったものと考えられる。	(ウェルネスイベント総参加者数) 屋外実施のイベントについては、今後雨天時の屋内サブ会場を手配し、柔軟なイベント運営が求められてくると考えている。
	(ウェルネスワークショップ参加者数) 行動制限の緩和により、ウェルネスワークショップが当初の想定より参加希望者が増え、参加できない方が多数みられた。	(ウェルネスワークショップ参加者数) 令和5年度については、ワークショッププログラムを見直し、すべての希望者が参加できるよう、プログラム内容や定数増加の改善が必要であると考ええる。
	(ウェルネスモニターツアー総参加者数) 県外旅行関係者の招聘を予定しており、代理出席が厳しい状況にあったため、欠席に至った。	(ウェルネスモニターツアー総参加者数) 今後代理出席での対応が可能となるよう、事前に欠席時の代理対応者について予め把握していくよう改善する必要がある。

今後の取り組み方針

今年度作成したツアープログラムを北中城村観光協会を中心に県内外の方に観光協会ホームページや公式SNSで周知し誘客を図る。令和5年度は県内最大の旅行博「ツーリズムEXPOジャパン2023」へ出展し、ツアープログラムの認知拡大に向けたプロモーション展開を検討している。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,794	5,794	4,634	1,160	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○当該業務は関係各所との連携が不可欠であり、業務の性質から地方自治法施行令第167条の2第1項2号に基づき随意契約を行っており、妥当であったと判断する。 ○予算規模は、事前に見積り等を踏まえ積算しており、妥当であったと判断する。 ○費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進 Ⅲ-8		
事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワープラザ地区の跡地利用を推進するため、基金を活用し公有地の先行取得を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,537	1,710	1,683	2,732	2,375
			653	1,144	1,442	2,732	1,421
			▲1,884	▲566	▲241	0	▲954
			0	0	0	0	0
		B. 執行済額	652	1,143	1,441	1,547	1,421
		うち交付金充当額	521	915	1,153	1,237	1,136
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	99.8%	99.9%	99.9%	56.6%	100.0%
		予算の状況の説明	当初予算から減額補正を行った主な要因は、用地取得に関する業務の精算による507千円の減である。				
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	公共用地の取得	目標	(1,206㎡)	(902㎡)	(1,636㎡)	(425㎡)	
		実績	0㎡	900㎡	1,211㎡	222㎡	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
	達成状況説明	買取申出期間を6～7月末まで2か月設け、申出者を募った結果、6件の申出がありうち1件と売買契約の締結を行い222㎡(1筆)の用地取得ができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R5年度)
	全体用地取得率:100%	目標	()	(91.7%)	(100%)	(100%)	()
		実績		85.1%	96.1%	98.2%	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
	進捗状況説明	土地取得の進捗状況は、222㎡の買取により10,575㎡→10,797㎡(98.2%)となった(目標値11,000㎡)。					

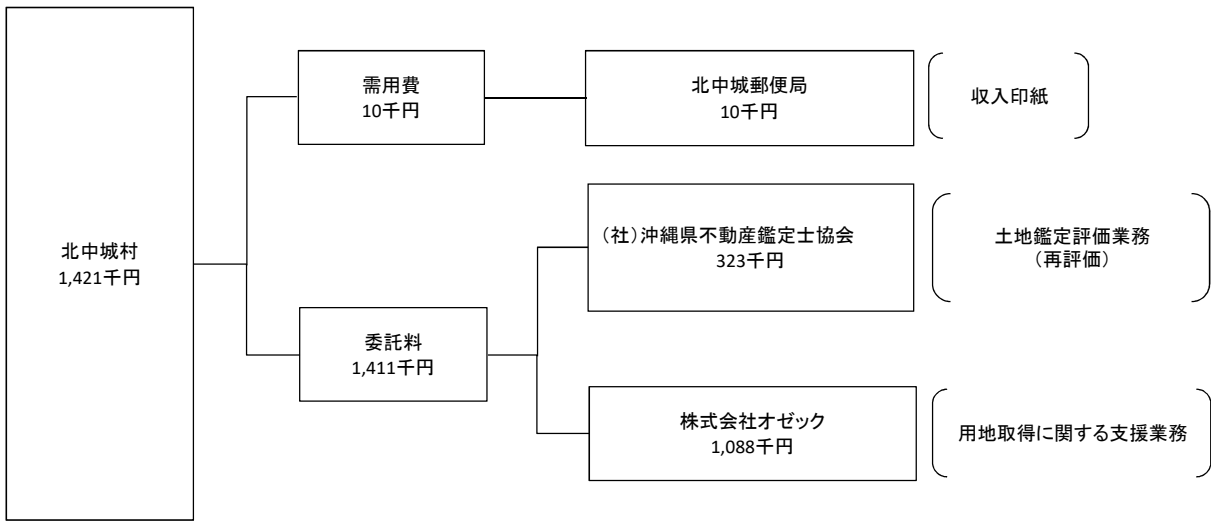
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	買取申出期間を6月～7月末まで2ヶ月設け、申出者を募った結果、申出希望が6件あり、そのうち3件について、辞退の申出があり、1件は交渉を予定していたが連絡が取れず、買取協議を行うことができなかった。残りの2件が買取協議に進んだが、1件は買取単価不満により協議不成立となった。1件については円滑に進んだことにより、222㎡(1筆)の用地取得ができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・買取価格の決定後、毎年地権者へ先行取得の概要、申出書を送付している。 ・村の買取価格は市場価格より低く、交渉に至らないケースがある。

今後の取り組み方針

・本事業は、令和4年度を最終年度としていたが、取得面積が買取目標に達しなかったことから、令和5年度以降も残り203㎡の用地取得に向けて事業を実施し、本事業の活用を検討している地権者への周知強化に取り組む。
 ・買取協議成立に向けて引き続き村に売却するメリットである税額控除といった優位な点について周知をしていく。
 ・ロウワー・プラザ地区返還後、先行取得した用地は、公園・緑地としてとして整備していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,743	1,421	1,136	285	322



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○車用地の土地鑑定評価業務は、通常の土地鑑定と異なり価格調査の手法が統一されていないことから、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号に基づき随意契約を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○用地取得支援業務については、指名競争入札により事業者を選定しており妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	キャンプ瑞慶覧返還地区等跡地利用推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	令和3～令和9年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進 Ⅲ-8		
事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワー・プラザ住宅地区の跡地利用を推進するため、本地区の課題及び対応方針を踏まえた沖縄市・北中城村キャンプ瑞慶覧返還地区等跡地利用計画(素案)の検討を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,706	3,846			
			2,706	3,846			
			0	0			
			0	0			
		B. 執行済額	2,706	3,180			
		うち交付金充当額	2,164	2,544			
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	100.0%	82.7%			
		予算の状況の説明	不用額666千円は入札残によるものである。				
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	跡地利用計画(素案)の検討	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	跡地利用計画素案の作成に必要な「道路配置方針」「緑地・公園配置方針」「土地利用方針」の検討を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R年度)
	跡地利用計画(素案)の作成	目標	()	()	()	(作成)	()
		実績				作成	
	【R3成果目標(後年度)】 跡地利用計画(素案)に対する地権者や村民アンケート調査により本事業の在り方を検証する	目標	()	()	()	(肯定的な評価80%以上)	()
		実績				70%	
	進捗状況説明	・当地区の計画条件の整理や関係機関との意見交換等を踏まえ、土地利用の方針を整理することで跡地利用計画素案を作成することができた。 ・土地利用プラン案の肯定的な意見は70%だった。					

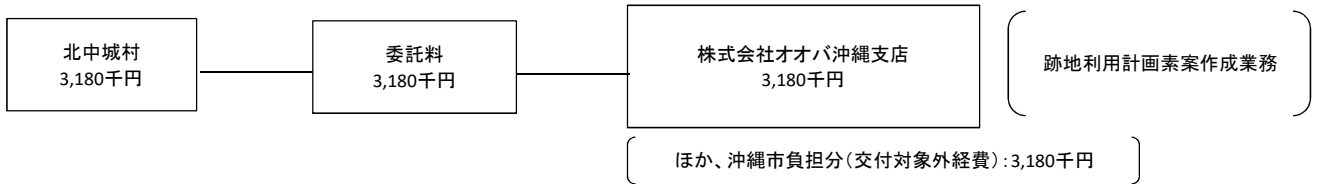
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路の配置案や土地利用のイメージを示した土地利用プラン案を作成し、地権者勉強会の開催やアンケート調査の実施、地権者役員会での説明を通して情報共有を行うことで土地利用プラン案に一定の理解を得られたものと考えらえる。一方、別の用途を検討した方がよいと考えている方も18%いた。 ・幹線道路の配置に係る課題として、既存の米軍施設への進入路(アップグレードへの米軍進入路)の取り扱いや国道330号への交差点取付に係る具体的な調整を進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した土地利用プラン案で示した幹線道路の配置案や土地利用のイメージ(ゾーニング)について、関係者との情報共有が概ね図られたことから、実現化に向けてより具体的な検討を実施して必要がある。 ・地権者や関係機関との意見交換等を踏まえ作成した土地利用プラン案を基に、沖縄防衛局や沖縄県、沖縄県警察等の関係機関と、より具体的な意見交換を実施する必要がある。

今後の取り組み方針

・土地利用プラン案を基に、跡地利用計画案の作成に必要な交通量推計及び企業のニーズ調査を実施する。
 ・引き続き、関係機関(沖縄防衛局、沖縄県、沖縄県警察署)との意見交換を行い、円滑な跡地利用の実施に向けて取り組む。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,360	3,180	2,544	636	3,180



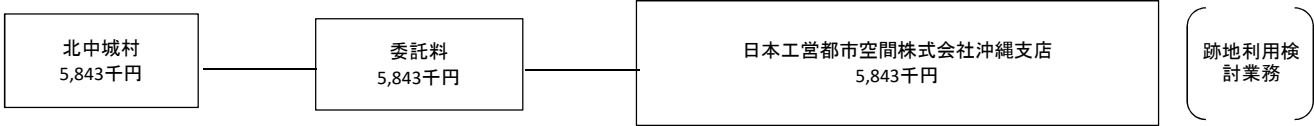
資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務は、指名型入札方式により事業者を選定しており妥当である。 ○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考える。 ○費目・用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-③	喜舎場ハウジング地区跡地利用推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ			
担当部署名	企画振興課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和4年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進 Ⅲ-8			
事業内容	キャンプ瑞慶覧喜舎場住宅地区の一部返還後の跡地利用に向けて、フルインター化計画を推進しながら、返還予定区域の見直しが行われていない場合に備えた計画書の作成を行う。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額					6,923	6,490
		(b) 予算現額					3,696	6,490
		(c) 増減額(b-a)					▲3,227	0
		(d) 繰越額					0	0
		A. 計(b+d)					3,696	6,490
	B. 執行済額						3,673	5,843
	うち交付金充当額						3,673	4,674
	次年度繰越額						0	0
	執行率(%) (B/A)						99.4%	90.0%
予算の状況の説明		不用額の647千円は、入札残や変更契約によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	返還後の整備計画書の作成	目標	()	()	()	(作成)		
		実績				作成		
	事業手法及び事業フレーム検討	目標	()	()	()	(実施)		
		実績				実施		
	返還後の整備スケジュール検討	目標	()	()	()	(実施)		
実績					実施			
達成状況説明	過年度の地権者意向調査、今年度実施した市場調査を踏まえ、基本計画案を3案作成し、これをもとに、事業手法・事業フレームの検討、返還後の整備スケジュールについて検討を行った。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (5年度)	
	整備計画書の作成	目標	()	()	()	(作成)	()	
		実績				作成		
	【R5成果目標(後年度)】 跡地利用の検討に対する地権者や村民等へのアンケート調査の実施「肯定的な評価」80%以上		目標	()	()	()	()	(80%)
			実績					
進捗状況説明	・本地区の上位関連計画における位置づけ、過年度の地権者意向調査結果、今年度実施した市場調査を踏まえ、フル又はハーフインターチェンジとスマートインターチェンジについて、基本計画案を3案作成した。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・本地区の跡地利用においては、周辺の交通渋滞緩和や本村の地域活性化を図るため、過年度までに喜舎場スマートICのフルインターチェンジ化に向けた取組みが進められてきた。フルインターチェンジ化に向けて、日米合同委員会で合意された統合計画で示された返還予定区域を変更するため関係機関との調整を進めてきたが、返還予定区域の変更について現時点では実現性が不透明な状況にある。</p>	<p>・返還区域の変更については沖縄防衛局を通して米側との調整が必須であるため、今後も返還区域の見直しについて、沖縄防衛局と継続的に意見交換を行う必要がある。また、返還予定区域の変更が困難な場合も想定した跡地利用の検討も同時並行で進めていく必要がある。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>・これまでに計画しているフルインターチェンジ化の実現に向けて、今後も沖縄防衛局と継続的に意見交換を行う。 ・返還予定区域の見直しが困難な場合も想定し、統合計画で示された返還予定区域における土地利用計画の検討を行う。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,843	5,843	4,674	1,169	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○本業務は、指名競争入札により事業者を選定しており、妥当である。 ○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考える。 ○費目・用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用サポートセンター事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ア		
担当部署名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の確保と多様な人材の活躍促進 Ⅲ-2		
事業内容	雇用機会の創出を図るため、地域に密着した就業支援による雇用サポートセンターを設置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,135	2,540	2,918	3,083	3,083
		(b) 予算現額	2,540	2,540	2,888	3,083	3,083
		(c) 増減額(b-a)	▲1,595	0	▲30	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		2,540	2,540	2,888	3,083	3,083
	B. 執行済額		2497	2497	2859	3,038	3,008
	うち交付金充当額		1997	1997	2286	2,430	2,406
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.3%	98.3%	99.0%	98.5%	97.6%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	登録企業の開拓	目標	(50件)	(50件)	(50件)	(30件)	
		実績	19件	15件	17件	16件	
	求職者の個別支援	目標	(40件)	(40件)	(40件)	(40件)	
		実績	30件	12件	10件	26件	
	新型コロナウイルス感染症による失業者等への支援	目標	()	()	(30件)	(30件)	
実績				27件	0件		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 登録企業の開拓については、新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、16件の登録にとどまった。 求職者の個別支援として、電話や窓口での相談件数は160件あったが、履歴書・職務経歴書の記入指導、面接対策等については、26件にとどまった。 新型コロナウイルス感染症による失業者等への支援については、沖縄県のパーソナルサポートセンター等の専用窓口があるため、支援機関の紹介を行い直接的な就職支援にはつながらなかった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	就業率	目標	()	(11人)	(5%以上)	(5%以上)	()
		実績		7人	1.4%	1.25%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 求職者からの相談件数は160件あったが、最終的なマッチングは9人中2人の就職内定で就業率は1.25%にとどまった。ただし、令和5年3月31日時点での採用結果待ち4人は人数に含めておらず、仮に6人の就職内定とすると就業率は3.75%となる。 						

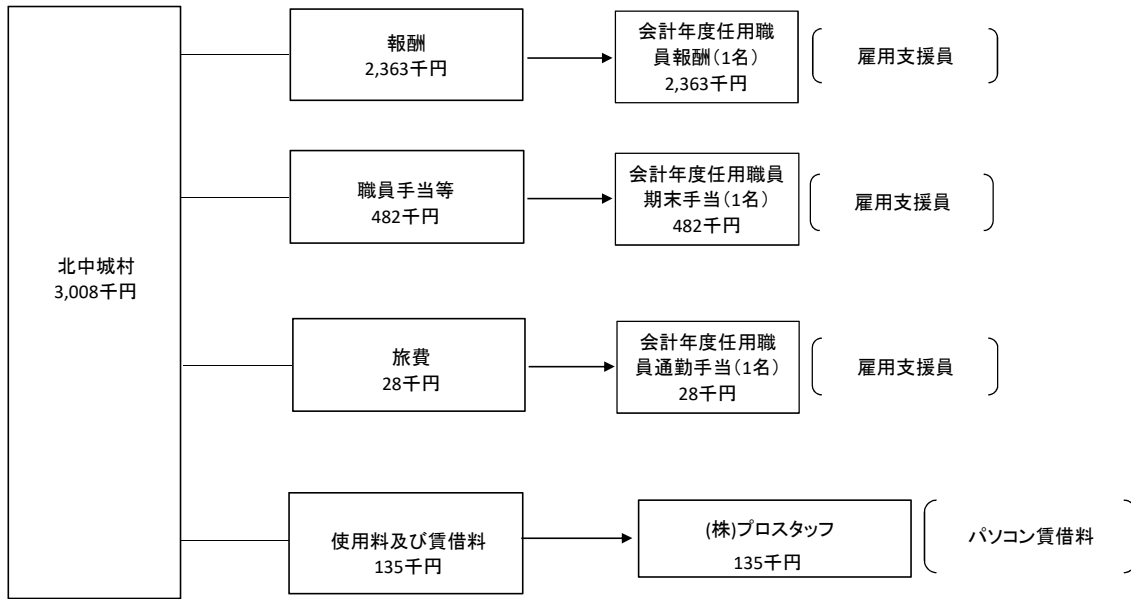
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 依然として新型コロナウイルス感染症の影響による企業の求人減少や新規登録企業開拓の減少がマッチング数に影響していると考えられる。 求職者は、ハローワークの登録のみ行うケースが多いため、当該雇用サポートセンターの事業内容について周知広報の強化やハローワークとの情報共有等の連携が必要である。 引き続き、求職者が希望に近い求人を選択できるよう登録企業の開拓を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標として相談件数に対する採用人数の割合を就業率としてきたが、R5年度は成果目標を過去の実績を基に見直す。 企業等に対し、行政側(北中城村・ハローワーク)の雇用者支援策等の周知を強化し、雇用促進に取り組む必要がある。 引き続き、マッチング率向上のため幅広く企業開拓を推進し、村広報誌へも求人情報を掲載し、求職者への周知を強化する。

今後の取り組み方針

- 求職者の採用内定のみならず、必要に応じて職業訓練校への紹介等により求職者のスキルアップを図ることで幅広い支援につなげる。
- 引き続き、ハローワーク等との情報共有や企業訪問等により、幅広く企業開拓に取り組む。
- 企業に対して行政の雇用支援策等の周知に努め、求職者の雇用促進を図り、村内求人情報を広報誌などで周知することで、マッチング率向上に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,008	3,008	2,406	602	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、関係規則等に基づき行っており、妥当であるとする。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ○費目、用途については、雇用サポート業務に精通した人員を配置しており、目的に即し必要だと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	グジョブ連携推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ウ		
担当部署名	企画振興課	事業実施 (予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	若年者の活躍促進		
事業内容	児童生徒の勤労観や職業観の育成を図るため、ジョブシャドウイングや職場体験、出前フォーラム等を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	18,642	21,712	21,636	22,482	22,482	
	(b) 予算現額	18,642	21,712	21,636	22,482	22,482	
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	18,642	21,712	21,636	22,482	22,482	
	B. 執行済額	18,642	21,377	21,636	22,482	22,482	
	うち交付金充当額	14,913	17,102	17,308	17,985	17,985	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	98.5%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	ジョブシャドウイングの実施(小学校)	目標	(2校)	(2校)	(2校)	(2校)	
		実績	2校	1校	2校	2校	
	職場体験の実施(中学校)	目標	(1校)	(1校)	(1校)	(1校)	
		実績	1校	0校	1校	1校	
	キッズJOBクラブの実施	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績		実施	実施	実施	
	出前フォーラムの実施(高校)	目標	(1校)	(1校)	(1校)	(1校)	
		実績	1校	1校	1校	1校	
キャリア教育講演会の開催	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
	実績	実施	実施	実施	実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校2校を対象としたジョブシャドウイングについて、北中城小学校は予定通り実施した。島袋小学校は校内で新型コロナウイルス感染者が増加傾向にあったため予備日を含め中止となったが、代替案として職業人講話を行った。 ・中学校を対象とした職場体験は予定通り実施した。(生徒数:166人・事業所開拓数:234事業所・受入事業所数:50事業所) ・キッズJOBクラブについて、小学校5年生を対象に予定通り実施した。 ・出前フォーラムについて、村内の県立高校を対象に予定通り実施した。 ・追跡調査は、高校3年生の村内中学校卒業生を対象に実施した。(対象者数:186人・回答者数:116人・ヒアリング調査:10人) ・キャリア教育講演会について、保護者、PTA、教員等を対象に予定通り実施した。 						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	就業に対する意識が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査により本事業のあり方を検証を行う。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		90%	88%	77%	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	小学校2校では、アンケート調査でも80%と事業前と比較し、就業に対する意識が向上した。中学校では事業前後で71%と変化はなく、結果として77%となった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、職場体験で希望職種を体験できなかった不満や、実際に体験をしたことで働くことに対するイメージとのギャップが生じたと考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで多くの制限等がある中、リモートワークやGIGAスクール構想など社会状況も大きく変化しており、児童生徒のキャリア形成のため、プログラム内容や更なる質の向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入企業の開拓をすすめ、希望職種とマッチングできるように努める。 ・現場で直接関わる担当教員を加えたワーキンググループ会議を発足し、プログラム見直しや効果的な手法の検討を行う。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、これまで培ってきた協力体制を維持し、本事業の継続実施に向け取り組む。 ・引き続き、児童生徒の就業意識の向上に努めることで、職業観や勤労観の育成に取り組む。 ・これまでの協議会に加え、現場担当者同士のワーキンググループ会議を発足し、児童生徒、保護者、地域に向けた取り組みの発展に取り組む。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">22,482</td> <td style="text-align: center;">22,482</td> <td style="text-align: center;">17,985</td> <td style="text-align: center;">4,497</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22,482	22,482	17,985	4,497	0	<pre> graph LR A[北中城村 22,482千円] --> B[委託料 22,482千円] B --> C[株式会社ケイオーパートナーズ 22,482千円] subgraph D [北中城村グッジョブ連携推進事業] B C end </pre>
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費							
22,482	22,482	17,985	4,497	0							

資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業務の性質上受託できる事業者が限定されてくるため、地方自治法167条の2第1項第2号のに基づき随意契約を行っており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、業者見積を踏まえ設定しており、適正な規模であると判断する。 ○費目、用途については、精算時に検査をしており、目的に即し必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	営農支援強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア	
担当部署名	営農水産課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄ブランドの確立と生産供給体制の強化	
事業内容	営農指導員による専門的な助言・指導により農家の生産力向上を図るとともに、安定した農業経営に必要なパイプハウス整備支援を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a)当初予算額	4,414	4,414	5,120	11,988	12,082
	(b)予算現額	9,574	11,726	10,937	4,895	10,403	
	(c)増減額(b-a)	5,160	7,312	5,817	▲7,093	▲1,679	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	9,574	11,726	10,937	4,895	10,403	
	B.執行済額	8,974	1,176	10,471	4,894	10,052	
	うち交付金充当額	7,178	9,380	8,377	3,914	8,041	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	93.7%	10.0%	95.7%	100.0%	96.6%	
予算の状況の説明	営農指導員の欠員のため、3月補正にて当初予算から1,679千円減額。また、不用額351千円については、補助団体による入札の執行残である。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	営農指導員の配置	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
		実績	2名	2名	2名	1.4名	
	パイプハウス施設の整備補助	目標	(2基)	(2基)	()	(2基)	
実績		2基	2基		2基		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・営農指導員の配置については、当初2名を配置していたが、内1名が8月中途退職し、9月以降欠員の補充ができなかった。 ・パイプハウス施設の整備については、計画通り2基の整備を完了した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	指導した農家の年間出荷額	目標	()	(4,006千円)	(3,814千円)	(4,373千円)	()
		実績		3,046千円	5,639千円	7,651千円	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	約80戸の村内農家への巡回指導により、前年度より生産量が伸び(対前年比推計値:106%)、年間出荷額が2,012千円増の7,651千円となった						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・営農指導員について、年度途中で1名の欠員があり、農家への巡回指導が不十分であったため、一部で農産物の生育不良、枯死などの被害が生じた。 ・パイプハウス施設整備について、予定していた枠を超える戸数からの整備希望があったことから、選定のための調整に時間を取られ、結果的に施工完了が年度末に及ぶこととなった。 ・成果目標値について、対外的な説明の場において、「農家個人の農業所得」との誤解を招く事態が生じた。 ・コロナ禍で開催が自粛されていた展示即売イベント2本の復活に伴い、出展作物調達のため対応できる農家への出荷量調整・指導を重点的に行ったことなどにより、最終的には成果目標達成につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・営農指導員について、村内農家の戸数に見合った人数の確保・配置が必要である。 ・パイプハウス施設整備について、イレギュラーな事態を想定し、事業着手時期などの年間スケジュールの見直しが必要である。 ・成果目標について、誤解が生じないよう適切な表現に改める必要がある。

今後の取り組み方針

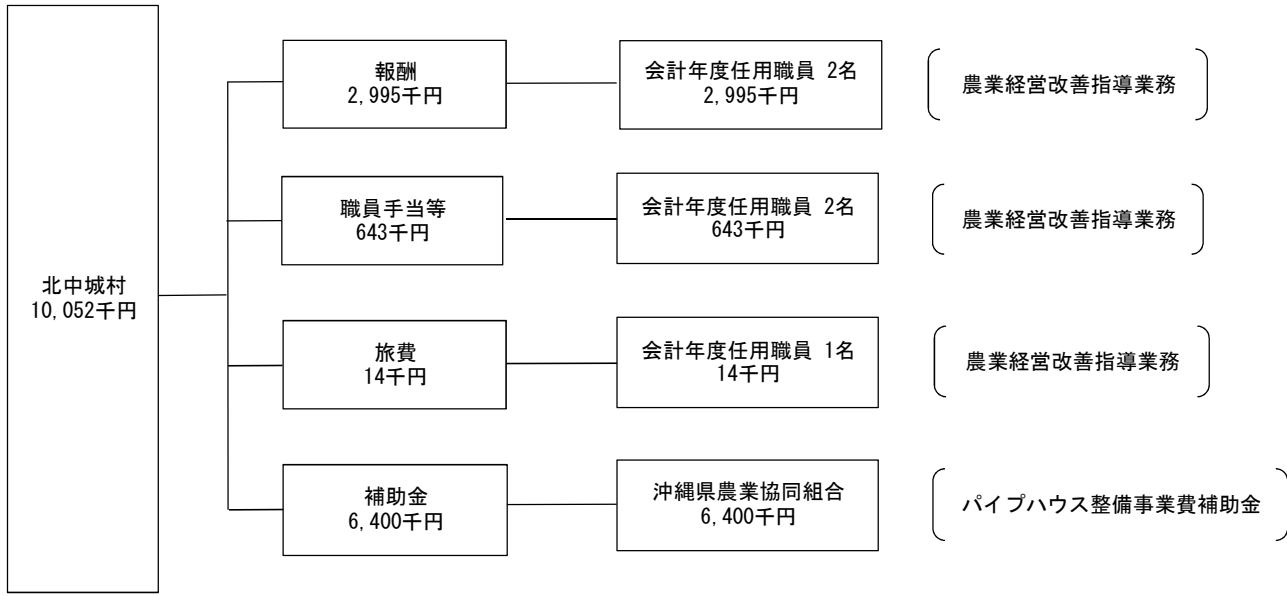
・病害虫防除や農業適正指導などについて、生産農家からのニーズが恒常的であることから、営農指導員の適正な配置と巡回指導に努め、生産量拡大を支援する。

・パイプハウス施設整備については、従来6月頃から行っている整備希望者選定などの取り組みを年度当初から取りかかり、時間的余裕をもって整備事業を進められるよう改善する。

・成果目標値について正確を期するため、R5より「村アンテナショップにおける村内農家の出荷額」と表現を改める(対象とする指標の変更はなし)。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
10,052	10,052	8,041	2,011	0



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○営農指導員は、資格・経験を備えた者を面接により選考・任用しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○パイプハウス整備予算については、複数業者からの見積りによる積算及び入札により実施していることから、妥当であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、パイプハウス整備に係る費用の一部を交付要綱に則って補助先が負担しており、妥当であると考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、いずれも農産物の生産量拡大に資するものであり、事業目的に即し、真に必要なものであったと考えている。

市町村名		北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-②	農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-キ 魅力と活力ある農山漁村地域の 振興と脱炭素社会への貢献			
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成30～令和7年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)			
事業内容	耕作放棄地の利活用に向けて、第一段階循環型農業エリア、第二段階生産拠点エリア及び第三段階医療・福祉健康増進エリア事業者への整備支援。良好な事業展開に向けた協定書の更新を図る。							
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和7年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
		(a)当初予算額	9,887	10,544	11,216	11,993	12,687	
		(b)予算現額	9,887	10,544	11,216	11,993	12,687	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A.計(b+d)	9,887	10,544	11,216	11,993	12,687	
		B.執行済額	9,785	10,538	11,187	11,836	12,595	
		うち交付金充当額	7,827	8,430	8,949	9,468	10,076	
		次年度繰越額	0	0	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	99.0%	99.9%	99.7%	98.7%	99.3%	
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
	第一段階～第三段階における民間事業者による各種施設整備・供用開始に向けた整備状況の把握・支援・調整管理	目標	()	()	()	()		
		実績				状況把握・支援・調整管理		
	第四段階及び第五段階整備に関する民間事業者の誘致、実施地の確保	目標	()	()	()	()		
		実績				誘致		
	良好な事業展開に向けた協定書の更新、エリアマネジメント組織設立に向けた推進	目標	()	()	()	()		
実績				未締結	未締結			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 第一段階事業～第三段階事業において、供用開始に向けて各種調整を実施した。 第四段階及び第五段階整備に関する事業者へ誘致を行い事業への賛同を得た。実施地の確保については運営方針が定まった後となった。 事業予定区域の2自治会及び第一～第三段階整備事業者(2社)との調整を進め、協定書(案)について合意形成を図ったものの、事業者から追加要望があり締結には至らなかった。今後も合意形成を図る。 							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準年度 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (7年度)	
	民間事業者による第一段階整備(循環型農業・体験農業ゾーン)の整備着手と令和4年度内の事業課の目処を付ける	目標	()	()	()	()	整備着手	()
		実績					整備着手済	
	・第二段階及び第三段階整備の実現に向けた事業計画の策定	目標	()	()	()	()	計画の策定	()
		実績					未策定	
	・第四段階整備以降の実現に向けた事業計画案の策定	目標	()	()	()	()	案の策定	()
		実績					未策定	
	・第四段階整備以降の事業者の誘致	目標	()	()	()	()	誘致	()
		実績					誘致	
	・地域協定書の更新	目標	()	()	()	()	更新	()
実績						継続協議		
【R2年度成果目標(後年度)】 循環型農業ゾーン及び体験農園施設ゾーンの実現として、施政可能資源を活用してエネルギーを生産し、コンテナ式水耕栽培施設(40F)の稼働と200坪程度の園芸施設に供給を図る。	目標	()	()	()	()	発電量20万kwh/年	()	
	実績					未完成		
【R7年度成果目標】 ・耕作放棄地の利活用:7,905㎡	目標	()	()	()	()	()	(7,905㎡)	
	実績							
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 第二段階及び第三段階整備事業計画策定への支援を実施した。第二段階は補助申請ヒアリング中。第三段階については、計画策定には設計費等の費用が出るため、農振除外の目処が立ってからとした。 第四段階整備以降の事業計画の策定案は、市民農園用地の取得者によって異なること、農振除外後の形態について慎重に深掘りした方がよいと判断したため継続精査することとした。 協定書内容について事業者から内容の追加要望があったため、協定書内容を継続して協議する。 再生可能エネルギー施設整備が当初計画より遅れているが、再生資源を確保し順調に進んでいる。 							

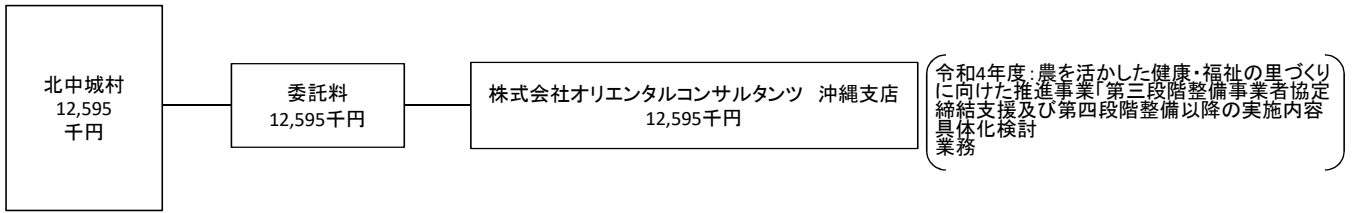
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(第二段階及び第三段階整備の実現に向けた事業計画の策定) 第三段階整備事業計画策定に設計が必要となるが、事業者は農振除外の目処が立たない限り、費用発生を避けたい要望がある。	(第二段階及び第三段階整備の実現に向けた事業計画の策定) (第四段階整備以降の実現に向けた事業計画案の策定) ・農振除外をすすめるために地権者説明会を実施する。 ・農振除外への計画熟度の向上。
	(第四段階整備以降の実現に向けた事業計画案の策定) 市民農園において農振除外が必要となることから、農振除外の目処が立ってからとした。 (地域協定書の更新) ・第一、第三段階整備事業者が決定し、関係者間で協定書を交わすことに同意はとれたが、追加事項の要望があったため、内容を継続協議することとした。 ・協定締結には事業予定区域の地域住民への周知を図り、将来的なエリアマネジメントを牽引する組織組成に向けた機運醸成を図る必要がある。	(地域協定書の更新) 追加要望に理解と共有を図る。 【R2年度成果目標(後年度)】 概ね順調に進んでいる。
	【R2年度成果目標(後年度)】 設計に着手しており、令和2年度計画時からは遅れているが概ね順調に進んでいる。	

今後の取り組み方針

- ・第一～第三段階整備区域のエリアマネジメント組織の設立に向けた地域連携協定の締結する。
- ・地権者調整・法的規制等に関する調整を行う。
- ・農振除外及び開発許可等に係る関係機関との意見聴取を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
12,595	12,595	10,076	2,519	0



資金の流れ、費目・使途の評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務に対し実績を踏まえた検討・対応能力に秀でた実効性のある者を契約者として選定したい理由から、地方自治法施行令167条の2第1項第2号に基づき随意契約を行っており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○本業務はプロポーザル方式により事業者を選定しており妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	総合英会話指導支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進	
事業内容	外国語教育の充実と国際性豊かな人材育成を図るため、児童生徒の英会話への興味・関心を高められるよう、村立小中学校に英語を母国語とする外国人や英会話能力の優れた講師を英会話指導員として配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,938	7,275	9,182	9,110	9,119
		(b) 予算現額	6,367	5,222	8,053	7,479	7,901
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,571	▲ 2,053	▲ 1,129	▲ 1,631	▲ 1,218
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	6,367	5,222	8,053	7,479	7,901
		B. 執行済額	6,360	5,222	8,053	6,624	6,664
		うち交付金充当額	5,088	4,177	6,442	5,928	5,331
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	99.9%	100.0%	100.0%	88.6%	84.3%
	予算の状況の説明	夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外としたことや勤務実績により、1,218千円の減額を行った。更に産前産後休暇等を取得した英会話指導員から休暇取得前の業務日誌の提出が無く、勤務実態の確認が出来なかったため対象外経費としたことから、1,236千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	英会話指導員の配置 (小学校:1人、中学校:1人、幼小兼務:1人)	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
		実績	3人	3人	3人	3人	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	年度当初には小中学校すべてに指導員を配置でき、年度途中までは円滑に事業を実施することができたが、昨年度と同様に、年度途中から1人休職となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	英語検定の受検者数	目標	()	(602人)	(516人)	(258人)	()
		実績		204人	224人	189人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	過去10年間で延べ英語検定等受検者数が最も低い人数であり、目標値の73.2%となり、目標を達成することができなかった。						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 継続的にネイティブスピーカーによる生きた英語を体験することで、「ALTとの英語の授業が楽しいと感じる」生徒が中学生においては、「楽しくない」と回答した生徒が数名いたため98.8%となったが、英語への興味関心の高さは維持できている。また、英語検定に関する周知は行ったが、以前より基礎知識の定着が低くなっていることが自己肯定感の低下に繋がっており、受検意欲も低下し、過去10年間で最も低い全生徒の約35%の受検率となった。 小学生では、「英語の授業が楽しいと感じる」児童は91.8%となっており、昨年度の95.5%よりも若干減少している。また、「昨年度に比べて英語が好きになったと思う」児童は90.9%となっており、昨年度の94.9%から若干減っているが関心興味の高さは維持されている。また、「英語検定等を受検してみたいと思う」児童は60人程度おり英語への関心の高さは伺えるが、周知や受検機会の創出が不十分ことから今年度も英語検定Jrの受検者が0人であった。 小学校、中学校併せると、ALTとの授業を受ける事で98%の児童生徒が英語に関する意欲が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語担当教諭と英会話指導員が、指導方法等についての意見交換や情報交換を行うことが個々の指導力の向上に繋がることから、情報交換等の時間を明確に確保するよう促す。 授業を通して、英語に対する興味・関心を更に高めるとともに、基礎学力の向上に努める。 引き続き、小学校においては、5・6年生は教科としての外国語、3・4年生は外国語に慣れ親しみ外国の生活や文化に触れる機会を与える外国語活動と英会話を関連付けながら興味関心を惹きつける授業展開や英語に親しませる授業により、更に興味・関心の向上に努める。 英検Jrは、学校主体で行うため、教職員の負担にならないような実施方法を検討する。

今後の取り組み方針

・小学校では、ALTとの交流を通して、児童の発達段階にふさわしい歌・ゲーム・簡単な挨拶やスキット、音声を使った体験的な活動等を行い、高学年ではコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

・中学校においては、コミュニケーション活動を重視したALTとのチームティーチングやグループワーク等の指導形態及び指導方法の工夫・改善を積極的に行い、英語による実践的コミュニケーション能力の育成を図る。

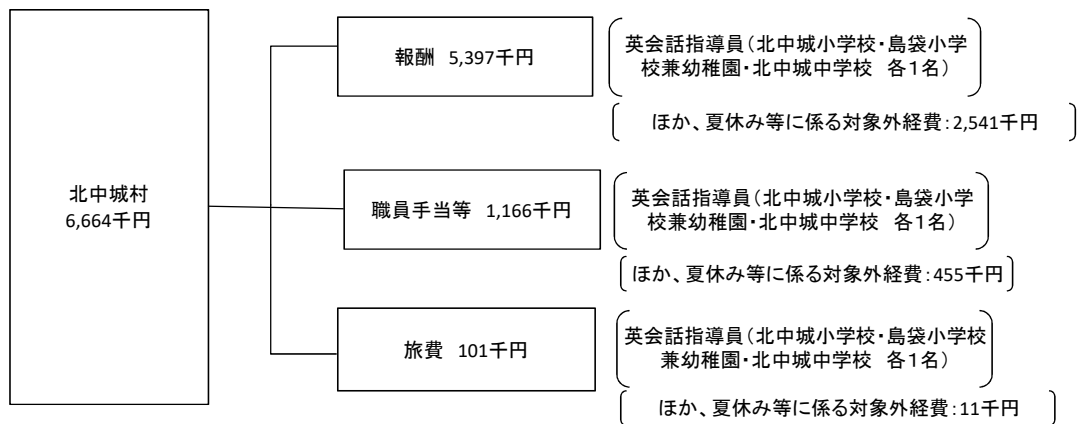
・英語担当教諭と英会話指導員の授業力向上を目的とした研修会を実施することで、児童生徒の英語力向上に努める。

・国際化社会における英語の重要性と必要性を理解させ、英語検定、英検Jrについての案内・周知の徹底を図りながら、受検機会の創出に取り組む。

・幼小中学校の学びの連続性を踏まえて、村イングリッシュコンテストの取り組みの際に、ALTと児童生徒が積極的に関わることで、英語力向上につなげる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
9,671	6,664	5,331	1,333	3,007



資金の流れ、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は英語を母国語とする外国人を積極的に採用し、面談や学校への聞き取りを通して指導力等を判断しているため妥当であると考えます。 ○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考えます。 ○費用・使途は事業目的に即したものであり適切であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

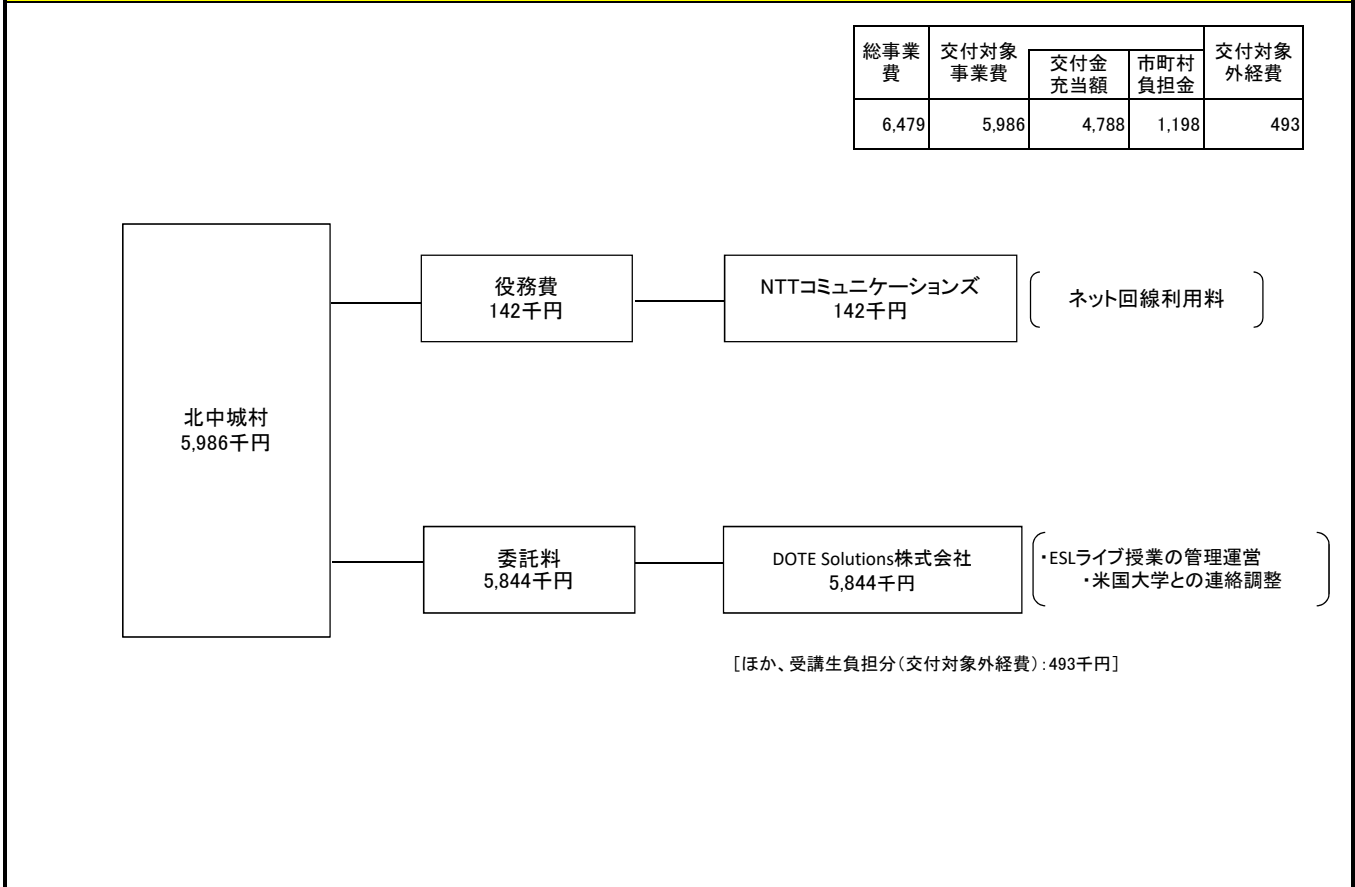
市町村名		北中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	アメリカ教育機関ネットワーク形成事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア	
担当部署名	生涯学習課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身に付ける 教育の推進	
事業内容	国際社会で対応できる人材を育成するため、米国教育機関とのWEBシステムによる集中講座を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a)当初予算額	5,422	5,634	5,529	5,529	5,557
	(b)予算現額	5,719	6,031	5,762	5,529	7,183	
	(c)増減額(b-a)	297	397	233	0	1,626	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	5,719	6,031	5,762	5,529	7,183	
	B.執行済額	5,694	6,244	5,620	5,531	5,986	
	うち交付金充当額	4,555	4,695	4,495	4,424	4,788	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.6%	103.5%	97.5%	100.0%	83.3%	
予算の状況の説明	急激な為替変動により、米国大学への円建て支払い額が上昇したため、12月補正で1,626千円増額。米国大学への支払い額に応じた清算払いを行ったため、1,197千円の不要額が発生した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	中学生クラス:講座64回 (前期32回・後期32回)	目標	(64回)	(64回)	(64回)	(64回)	
		実績	64回	64回	64回	64回	
	小学生クラス:講座64回 (前期32回・後期32回)	目標	(64回)	(64回)	(64回)	(64回)	
実績		64回	64回	64回	64回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 小学生クラス、中学生クラスともに計画通りに講義が開催され、活動目標を達成することができた。 児童生徒の英語力が向上するとともに、授業での積極性や自身で考えて意見を述べる力なども養われており、本村の国際性に富む人材育成へ向け児童生徒自身の意識を高めることができた。 						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	定期テストにおける英語習熟度:講座を受けた生徒全員80点以上	目標	()	(前期:全生徒 後期:全生徒)	(前期:全生徒 後期:全生徒)	(前期:全生徒 後期:全生徒)	()
		実績		前期:22名中20名 後期:23名中19名	前期:24名中14名 後期:22名中16名	前期:24名中19名 後期:22名中18名	
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	<p>前期については目標達成した生徒は19名となっているが、4名の生徒が70点台と目標達成にわずかに届かなかった。後期については目標達成した生徒は18名となっており、3名の生徒が70点台と目標達成にわずかに届かなかった。遅れが見られる受講者に対する講座後のフォローアップに努めているが、習熟度が低い受講者が見受けられる。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p><小学生クラス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校受講者間での語学力が乖離しており、講座内容及び進行について変更を行った。 	<p><小学生クラス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座内容の理解に必要な英語の基礎的な部分を宿題や授業外で生徒に教える必要がある。 ・生徒のレベルを確認するために、宿題で授業の理解度を確認する必要がある。
	<p><中学生クラス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校受験や課外活動等に参加する理由から、特定の生徒の出席率低下の問題が発生した。 ・今期からスピーキングを重視する授業を実施したにも関わらず、達成度テストにおいて、ライティング(筆記)を加えてしまったため、結果的に生徒が準備不足となっていました。 	<p><中学生クラス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・やる気の低下による問題で欠席しているわけではないため、生徒が欠席した場合でも課題を受け取り、次週に提出できる仕組みをつくる必要がある。 ・達成度テストの内容を変更する必要がある。(ライティングからスピーキングへ)

今後の取り組み方針

- <共通>
- ・Googleクラスルームを活用して、授業を欠席した生徒も宿題を受け取れるようにする。
- <小学生クラス>
- ・講座内容との乖離を埋めるため宿題等サポートの実施。
- <中学生クラス>
- ・達成度テストの問題でライティングよりもスピーキングに重点を置く。
 - ・Googleクラスルームを活用して、授業を欠席した生徒も授業内容を把握でき、宿題の提出もシステム上で実行できるようにする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は、米国大学との連携が不可欠であり、当該事業者が提携する大学では、他事業者にはない効果が見込めることから、地方自治法167条の2第1項第2号に基づき随意契約を行った。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業者より見積もりを取っており適正である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受講生からは受講料を徴収しており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については、大学へ支払う受講料、人件費、米国との交渉等に係る費用として必要である。

市町村名		北中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	歴史まちづくり計画策定事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(5)-イ		
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	令和4~令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の歴史と景観に配慮した千年悠久のまちづくり Ⅲ-3-(3)		
事業内容	本村の歴史風致資産を核にしたまちづくりを推進するため、地域意向調査の実施や委員会開催等を通して歴史まちづくり計画を策定する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和5年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,091				
		(b) 予算現額	6,465				
		(c) 増減額(b-a)	▲626				
		(d) 繰越額	0				
	A. 計(b+d)		6,465				
	B. 執行済額		6,464				
	うち交付金充当額		5,171				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		入札残等により補正にて626千円減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	住民ワークショップの開催:3自治会		目標 (3自治会)	()	()	()	
			実績	3自治会			
	庁内WG会議:4回		目標 (4回)	()	()	()	
		実績	3回				
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 重点地区として検討している3地区において住民の意見徴収を行った。 庁内関係部局へ意見徴収を行い、庁内ワーキンググループ会議を開催した。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R5年度)
	計画策定へ向けた基礎調査報告書の作成		目標 ()	(実施)	()	()	()
			実績	実施			
	【R5成果目標】住民アンケート:策定した計画について、歴史情緒あるまちづくりが期待できると答えた割合		目標 ()	()	()	()	(80%以上)
			実績				
進捗状況説明		基礎調査報告書を作成した。					

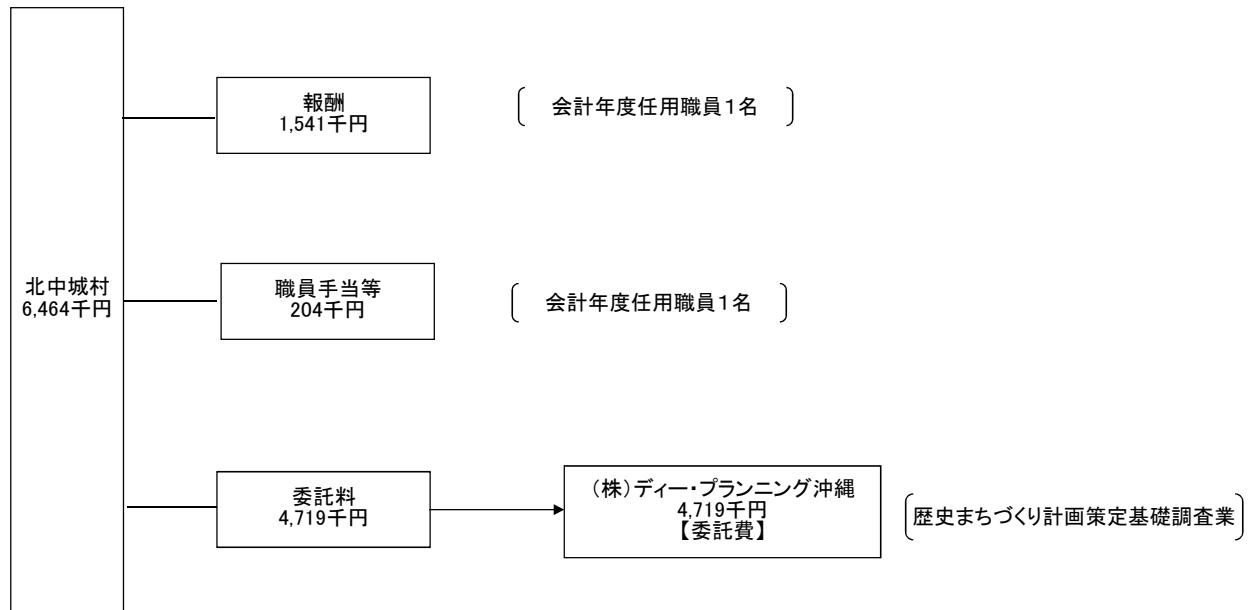
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	北中城村歴史まちづくり策定基礎調査報告書を作成し、その中で歴史風致という概念を取り入れ、歴史的風致の設定要件を満たすための根拠資料を示した。しかし、北中城村史や字史は二次資料(参考資料)の位置づけであり、一次資料(学術文献資料)を根拠資料とする必要がある点について留意が必要である。	学術文献資料の収集・分析においては、専門外職員での対応は厳しい状況であり、地域史に精通している方の協力が必要である。ただ、沖縄県内では慢性的に専門職不足であるため、解決策を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

北中城村の歴史的風致案を基に委員会等を開催して計画策定に向け取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,464	6,464	5,171	1,293	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は適正であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	米国統治下の北中城村実態調査事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア		
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	令和4~令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及		
事業内容	米国統治下における本村の歴史的経過(集落復興、村行政の歩み、教育、産業、軍用地施設の移設など)を明らかにするため、各種調査を実施する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(7年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	予算の状況	(a)当初予算額	6,037				
		(b)予算現額	2,935				
		(c)増減額(b-a)	▲3,102				
		(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)		2,935				
	B. 執行済額		2,933				
	うち交付金充当額		2,346				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		99.9%				
予算の状況の説明		当初、会計年度任用職員2名を予定していたが専門職員の採用に至らず12月予算約3,100千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	村関係資料の整理	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	過去の聞き取り調査の音源記録の文字起こし・原稿化・話者校正	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	追加の聞き取り調査の実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	未実施				
	戦後集落地図の作成	目標	(作成)	()	()	()	
		実績	未作成				
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・村関連資料の整理として、行政資料及び集落に関する資料整理を収集し整理、目録作成等を実施した。 ・米国統治下の実態を知るうえで必要な聞き取り調査の音源記録の文字起こしや原稿化を実施した。 ・専門職員の未配置(1人)により、追加の聞き取り調査及び戦後集落地図は未作成となった。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R7年度)
	聞き取り調査音源記録の文字起こし	目標	()	(20件)	()	()	()
		実績		10件			
	文字起こしした聞き取り調査の記録の原稿化	目標	()	(10件)	()	()	()
		実績		5件			
	【R7成果目標】利用者アンケート(村の歴史に対する理解が深まった)		目標	()	()	()	()
進捗状況説明		専門職員の未配置(1人)により聞き取り調査音源記録の文字起こし、原稿化については目標とする数値に至らなかったが、米国統治下における本村の歴史的経過のうち、集落復興にかかる北中城村の様相を明らかにすることができた。					

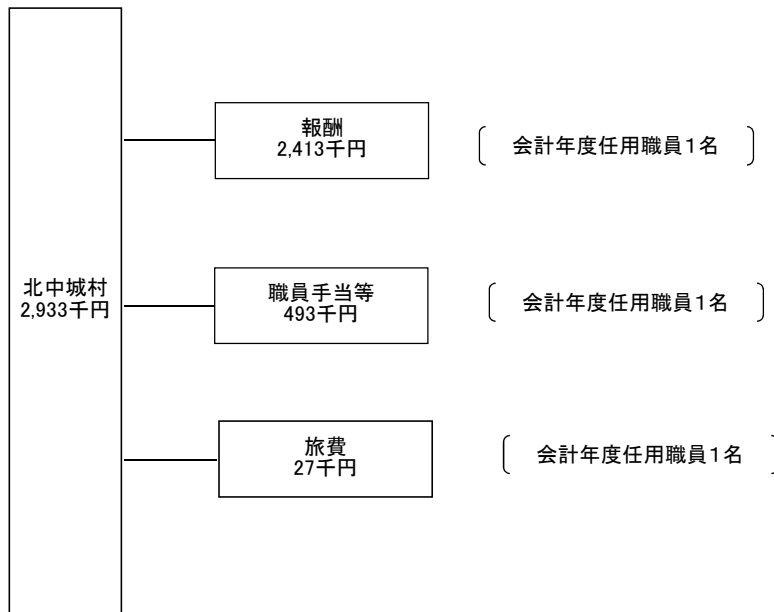
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・沖縄県内において学芸員や地域史に精通した専門員が慢性的に不足していることが支障となり、雇用確保に至らず目標としていた事業を効率的に推進することができなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で作業を効率的に進めるために、地域史に精通した専門職員に囚われず、一般事務職員を採用し、業務分担が可能か検討するべきである。 ・定期的な工程管理・業務報告等を密に行い、事業の推進に向けて精査するべきである。
	・大量の資料の中から選別、精査にあたっても相当な時間を要しているため、専門知識を有した方が必要である。	
	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出自粛要請が出ている中、断捨離等により実相解明できる資料等を廃棄している方々が多く、資料収集が困難な状況である。	

今後の取り組み方針

北中城村の米国統治下における歴史的経過を知るためには、行政保有資料のみならず、村民が保有している資料、公文書館等に保管されている資料など多くの資料を基に解明する必要がある。雇用の確保、作業内容の分担、見直しを行いながら記録化を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,933	2,933	2,346	587	0



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○職員は、面接を経て、経験や業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③	米回国録資料整理公開事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア		
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	令和4年～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及 Ⅲ-3-(3)		
事業内容	米軍関係者が記録した約1万5千点の写真・映像等の資料を分類・整理し、企画展を開催する。来場者から当時の場所や状況等の情報収集を目的とした企画展であるため、来場者が知っている情報を直接展示ボードへ書き込めるよう展示方法を工夫する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		4,960				
			5,783				
			823				
			0				
		B. 執行済額	5,545				
		うち交付金充当額	4,436				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	95.9%				
		予算の状況の説明	企画展にかかる委託費、寄贈資料の整理指導に係る費用、人件費を増額した。資料整理指導に要する時間が短縮したため、謝礼金の不用額238千円が生じた。				
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	企画展開催数	目標	(1回)	()	()	()	
		実績	1回				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	当初計画どおり企画展1回開催することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	企画展来場者数	目標	()	(200人以上)	()	()	()
		実績		524人			
	来場者の満足度	目標	()	(80%以上)	()	()	()
		実績		98%			
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	来場者へアンケートを実施したところ、満足度が98%と目標を達成することができた。						

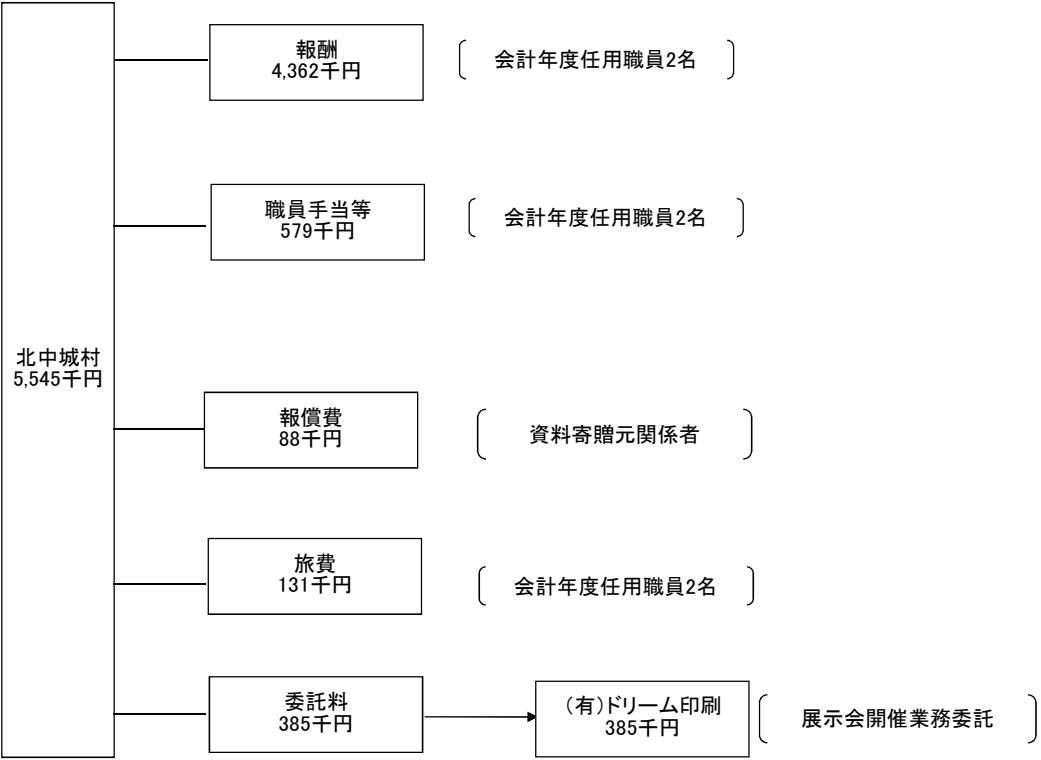
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>広報誌やSNS、村内飲食店へポスター掲示依頼等、事前周知により、来場者数の目標を達成することができた。また、写真撮影コーナーやスライドショー放映、観光協会と協力しSNSライブ配信、ギャラリートークを行うなど工夫を凝らした企画展を実施することで、満足度も目標を達成することができた。</p>	<p>アンケート結果や来場者からの意見より、写真の大きさ、文字の大きさ、スライドショーモニター画面の大きさなど改善するべき点がある。</p>

今後の取り組み方針

本事業で整理した資料の中から本村に関する写真等について、展示会会場で得た情報を参考に解説を充実させるとともに、村内小中学校と協力しながら平和学習等へ活用できるよう引き続き展示会開催に向けて取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,572	5,545	4,436	1,109	27



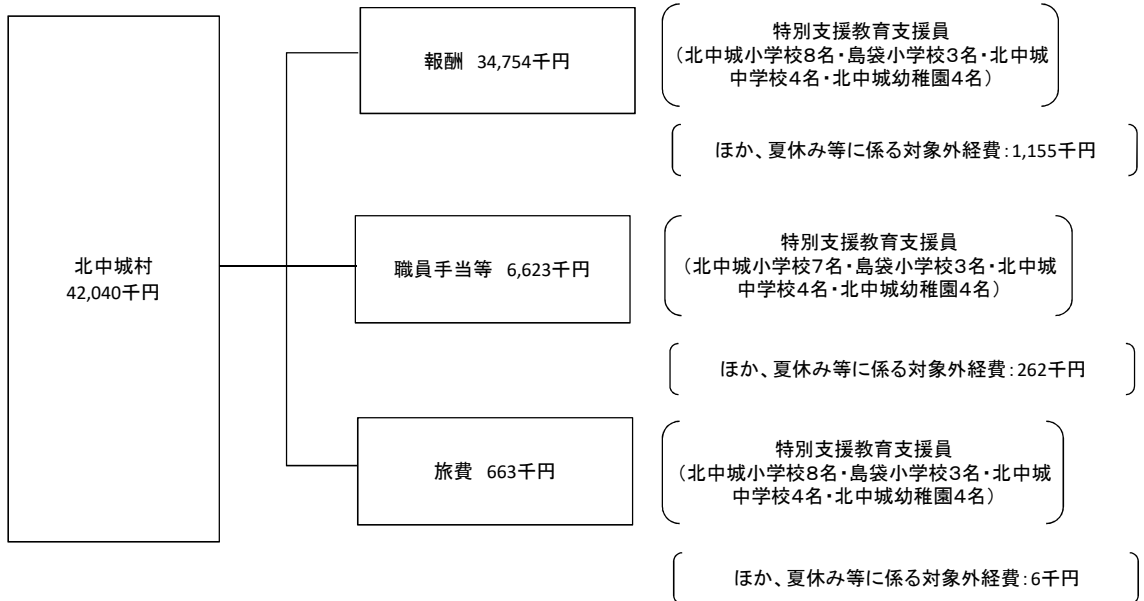
資金の 用途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○契約規則で定める額を超えておらず、見積比較し最も価格が低いという理由から、地方自治法施行令第167条の2第1項第1号に基づき随意契約を行っており、妥当であったと考えている。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-①	特別支援教育支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ			
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	時代の変化に対応する 魅力ある学校づくりの推進			
事業内容	障害等による特別な支援を要する児童生徒について、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、私立幼稚園、小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	(a) 当初予算額	31,932	30,758	42,151	44,627	48,070		
	(b) 予算現額	34,115	26,223	39,331	40,265	42,801		
	(c) 増減額(b-a)	2,183	▲ 4,535	▲ 2,820	▲ 4,362	▲ 5,269		
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0		
	A. 計(b+d)	34,115	26,223	39,331	40,265	42,801		
	B. 執行済額	34,115	26,223	39,331	39,965	42,040		
	うち交付金充当額	27,292	20,978	31,464	31,971	33,631		
	次年度繰越額	0	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	99.3%	98.2%		
予算の状況の説明	夏休み等の長期休業中の勤務実績分を補助対象外経費としたことや勤務実績を踏まえ、5,269千円を減額し、適正な予算執行に務めた。							
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
				R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	特別支援教育支援員の配置		目標	小学校:10人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	小学校:10人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	小学校:10人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	小学校:11人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	
			実績	小学校:10人 中学校:4人 幼稚園:4人	小学校:10人 中学校:4人 幼稚園:4人	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明	幼稚園及び小中学校すべてに支援員を配置できたことで、円滑に事業を実施することができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)	
	支援員に対する満足度(80%以上)を含め、対象となる児童生徒の保護者へのアンケート調査により、本事業のニーズ・課題の把握を行う		目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
			実績		96.6%	93.7%	93.1%	
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
	進捗状況説明	年度末(2月)に、保護者72名に対してアンケート調査を行った結果、保護者の支援員に対する満足度は93.1%であった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで、当初の活動目標どおり支援員を配置し、きめ細かな支援を行ったことで、「支援員に対する満足度」は93.1%となった。 保護者へのアンケートで「支援員の支援により子どもに変化があった」との回答が86%いることから、個々に応じた支援ができ、学校生活や学習上の困難の改善が図られている。 一方で、「どのような対応がされているのか分からない」という回答があったことから、徐々にコロナも落ち着き、以前の学習環境に戻りつつある中、保護者と対面での情報共有の機会など体制の充実が、引き続き課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する幼児児童生徒の人数が年々増加しており、保護者からも「人員を増やしてほしい」という要望もあるが、限られた人員で更に効率的な活用に努める必要がある。 対象児童等が安心して学校生活を送れるよう、学級担任等や保護者及び関係機関が連携しながら個々に適した支援を行える体制の強化が必要である。 保護者の要望も多様なため、支援員ごとの支援の偏りや差をなくし、支援に一貫性を持たせられるよう、教職員や支援員と個々の特性や多様な障がいなどに対する支援方法について知識を共有することで、支援の質の向上を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 学校において個に応じた時間割編成の工夫や、支援員の資質向上のために教育委員会主催での研修会を実施する。 個々に適した支援体制を強化するため、学級担任等が作成する「個別的教育支援と指導計画」を活用し、支援の充実を図る。 支援員を対象とした研修会の開催することで、障がいに対する特性を学び児童等の個々に対する支援の充実を図る。 学校内や学校間において、支援員同士の情報共有の場を確保することで支援方法のスキルアップを図ると共に人材育成に取り組む。 三者面談や授業参観時などに保護者と支援員が積極的に情報共有できる機会を設ける。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
43,463	42,040	33,631	8,409	1,423



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は、面接を経て、経験や業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。 ○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと判断する。 ○児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目や使途は事業目的に即したものであると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②		学習支援員配置事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア	
	担当部課名	教育総務課		事業実施 (予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける 学校教育の充実
事業内容		学習の遅れがちな児童生徒に対し基礎的・基本的知識や技能の習得に向けた支援を行うため、村立小中学校に学習支援員を配置する。					Ⅲ-3-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a) 当初予算額	4,590	5,410	7,313	7,789	7,906
	(b) 予算現額	4,326	4,695	7,105	6,490	5,400	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 264	▲ 715	▲ 208	▲ 1,299	▲ 2,506	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	4,326	4,695	7,105	6,490	5,400	
	B. 執行済額	4,326	4,695	7,105	6,293	5,179	
	うち交付金充当額	3,460	3,756	5,684	5,034	4,142	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	97.0%	95.9%	
予算の状況の説明		夏休み等の長期休業中の勤務実績分と12月まで支援員が不在であった額を補助対象外経費としたことや勤務実績を踏まえ、2,506千円の減額をし、更に勤務実績により不用額が221千円となったが、概ね適正な予算執行に務めた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	学習支援員の配置	目標	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	
		実績	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	
	目標	()	()	()	()		
実績							
達成状況説明	年度当初には、小学校にしか支援員を配置することができず、中学校には12月からの配置となったが、活動目標を概ね達成したことで、事業を円滑に実施することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力到達度調査における平均正答率 30%未満の割合の減少	目標	()	(小5算数:8.9%以下 中2数学:32.8%以下)	(小5算数:12.0%以下 中2数学:32.2%以下)	(小5算数:18.6%以下 中2数学:28.5%以下)	()
		実績		小5算数:29.6% 中2数学:32.7%	小5算数:16.2% 中2数学:41.2%	小5算数:20.1% 中2数学:51.0%	
	沖縄県学力到達度調査における無答率の割合 の減少	目標	()	(小5算数:8.9%以下 中2数学:11.1%以下)	(小5算数:4.5%以下 中2数学:11.1%以下)	(小5算数:7.0%以下 中2数学:8.2%以下)	()
		実績		小5算数:12.0% 中2数学:6.8%	小5算数:6.3% 中2数学:9.6%	小5算数:11.1% 中2数学:18.5%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率30%未満の割合については、小学校・中学校ともに目標値を達成できなかった。 無答率の割合についても、小学校・中学校ともに達成できなかったが、小学校では県平均との差(Δ3.8)が昨年度よりも下っており、一定の成果は得られている。 目標が未達成ではあるが、学習の遅れがちな児童生徒への声かけや支援を行い、教師とのチームティーチングにより、学習支援が充実できた。 						

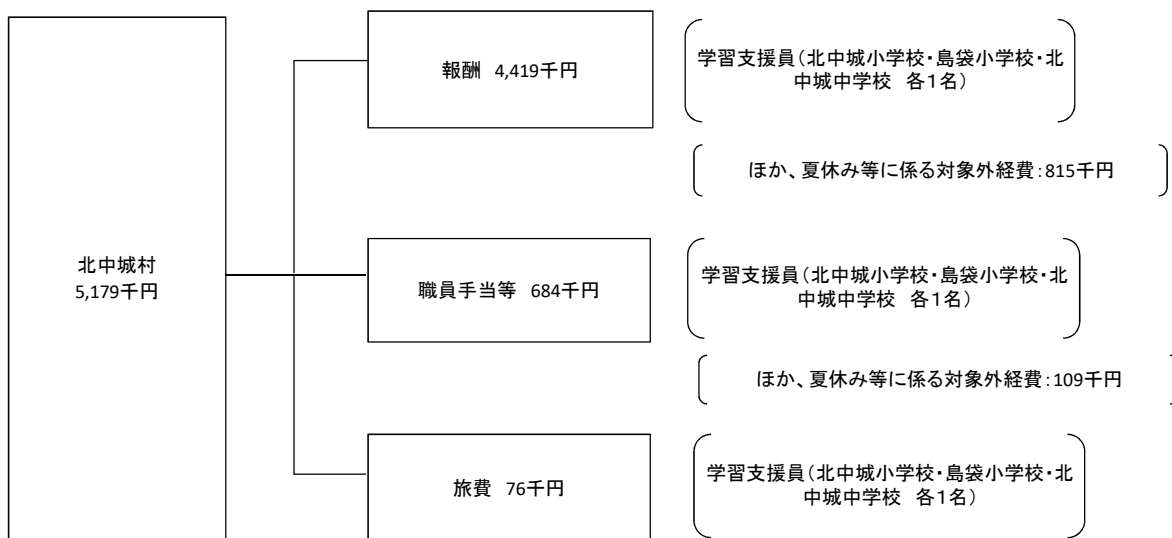
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・R4県学力到達度調査(算数、数学)で、小・中学校とも、成果目標値を達成できなかったものの、小学校では、正答率30%未満の割合が県平均27.9%を7.8%下回っており、無答率の割合も県平均14.9%を3.8%下回っていることから一定の成果が得られていると考える。長文問題や記述式の解答に課題があることが、達成できなかった一因として考えられる。 ・中学校では、正答率30%未満の割合がかなり高く、全体的に成績が落ち込んでいる。教職員不足により当初配置予定であった学習支援員を急遽、臨任に充てたため、学習支援員を年度当初から配置できず成績下位層への細かな支援が不十分であったことも要因の一つと考えられる。成績下位層を底上げし中位層に押し上げることが、引き続きの課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、成績下位層の底上げのため、継続して追調査及び形成評価を行い、支援対象の児童生徒のつまずきや支援内容の定着状況を把握し、育ちを検証していくことが有用と考えられる。 ・これまで以上に研修や教材研究の充実を図ることで、「確かな学力」の向上を図る必要がある。 ・学習支援員のより良い人材確保のため、公募に当たっては、教員免許所持者を優先採用することや退職教員に教育委員会から直接、声かけを行うなど、積極的な人材確保に努める。

今後の取り組み方針

- ・今後も全ての村立小中学校に学習支援員の配置を行い、学力の向上を図っていく。
- ・学力向上のために、教員と学習支援員のチームティーチングによる授業力向上及び連携強化等の研修を行い、より質の高い授業が展開できるようにする。
- ・学習支援員研修会において、学力調査等の結果分析を共有することで、より効果的な支援につなげる。
- ・学習支援員について、より良い人材の確保に向け、村の広報やホームページ等を活用し公募を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,103	5,179	4,142	1,037	924



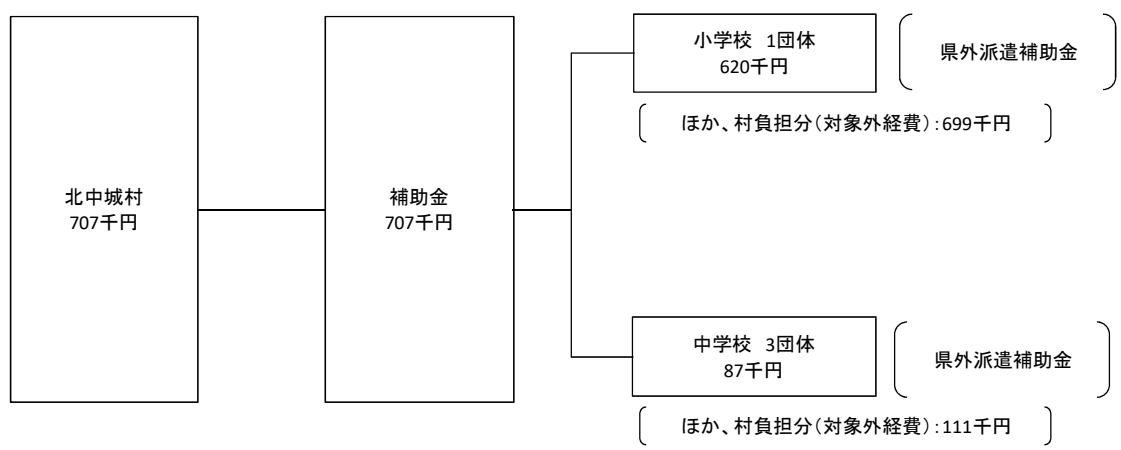
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は、教員免許を有している者を面接を経て採用しており、妥当であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、村規則等に則り積算しており、妥当であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目及び使途は事業目的に即したものであると判断する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北中城村					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-③	児童生徒の県外派遣旅費等支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ウ		
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	公平な教育機会の確保と 学習環境の充実		
事業内容	県外大会への参加を全児童生徒に等しく機会を与え、児童生徒の視野を広げるため、学校教育の一環として派遣されるものに対し、派遣費用を補助する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,537	2,440	2,440	3,450	3,450
		(b) 予算現額	4,231	4,511	350	3,450	1,605
		(c) 増減額(b-a)	1,694	2,071	▲ 2,090	0	▲ 1,845
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		4,231	4,511	350	3,450	1,605
	B. 執行済額		4,231	4,511	332	1,786	707
	うち交付金充当額		3,384	3,609	265	1,428	565
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	94.9%	51.8%	44.0%
予算の状況の説明		個人種目の派遣団体が3団体あり、派遣者数が当初の見込み数を下回ったため、当初予算から1,845千円減額し、更に2～3月の大会において派遣が期待されていた団体の派遣が無かったため、898千円の不用額が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	県外への派遣団体数		目標 (5団体)	(6団体)	(8団体)	(8団体)	
			実績 8団体	2団体	7団体	4団体	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	コロナも落ち着きほぼ通常の部活動が再開されている。目標には届かなかったが、九州大会3団体、全国大会1団体、延べ32人の児童・生徒を県代表として派遣することの支援ができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	派遣された児童生徒の視野が広がったか保護者に対するアンケート		目標 ()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
			実績	97.0%	92.7%	94.3%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 大会派遣後の児童生徒の様子について、94.3%の保護者(29人中27人)が、「視野が広がった」「積極的になった」など意欲が高まっていると回答し、目標を達成することができた。 学習意欲についても、「学習時間はあまり変わらない・普段通り」と答える保護者がいるものの、86.2%が「向上している」と答えており、部活動での県外大会への参加が学習面においてもモチベーションの向上に寄与していることが確認でき、児童生徒にとって効果が高い事業であると考えます。 						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 学校と連携して補助対象の児童・生徒の把握に努めたことで対象者全員へ支援することができた。 県外へ派遣される際の航空運賃等を補助することにより、県外の大会に参加し他都道府県の児童生徒との競争や交流を行うことができ、視野を広げるという目標が達成されたと考えられる。 県外の大会にまた出場したいという気持ちが強く、それが様々な面で言動力になっており、村補助金の支援はとてありがたいとのコメントがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助対象の児童・生徒全員への支援については、コロナ禍で県外への派遣決定が遅れる中でも、本制度の周知と学校と密に連携をとることでうまく事業を推進できているので、改善の必要はないものと考えられ、引き続き連携を取りながら実施する。 引き続き、補助を行うことで、児童生徒の健全育成及び人材育成につながることを期待される。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> 引き続き学校へ本制度の周知を行い、学校と密に連携をとることで対象となる児童生徒の把握に努め、補助対象の児童・生徒全員への支援に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,517	707	565	142	810



資金の流 れ、費目・ 使途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先への交付決定は、要綱等に則り行っており、妥当であるとする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担額を1/2としており、負担割合は妥当であるとする。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-④	小中学生県外派遣支援(社会教育関連)事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ウ		
担当部署名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	公平な教育機会の確保と学習環境の充実		
事業内容	村に在住する子ども達に対して等しく県外大会に参加する機会を与えることで子ども達の視野を広げるため、村・県を代表して派遣されるスポーツ・文化活動に対して航空運賃を補助する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		494	950	950	950	950
			940	616	9	100	950
			446	▲ 334	▲ 941	▲ 850	0
			0	0	0	0	0
		940	616	9	100	950	
	B. 執行済額	940	616	9	100	454	
	うち交付金充当額	751	493	7	80	363	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	47.8%	
予算の状況の説明	・496千円の不用額は、派遣者数が目標を下回った為。また、九州地区への派遣が多かった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・県外大会への派遣者数	目標	(50人)	(50人)	(50人)	(50人)	
		実績	40人	1人	11人	47人	
達成状況説明	目標	()	()	()	()		
	実績						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
			()	(80%)	(80%)	(80%)	()
	派遣された児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方について検証する。	目標	()	()	()	()	
		実績		100%	100%	85%	
進捗状況説明	目標	()	()	()	()		
	実績						
・大会派遣後の児童生徒の様子について、85%の保護者(47人中40人)が、「視野が広がった」「積極的になった」など意欲が高まっていると回答した。							

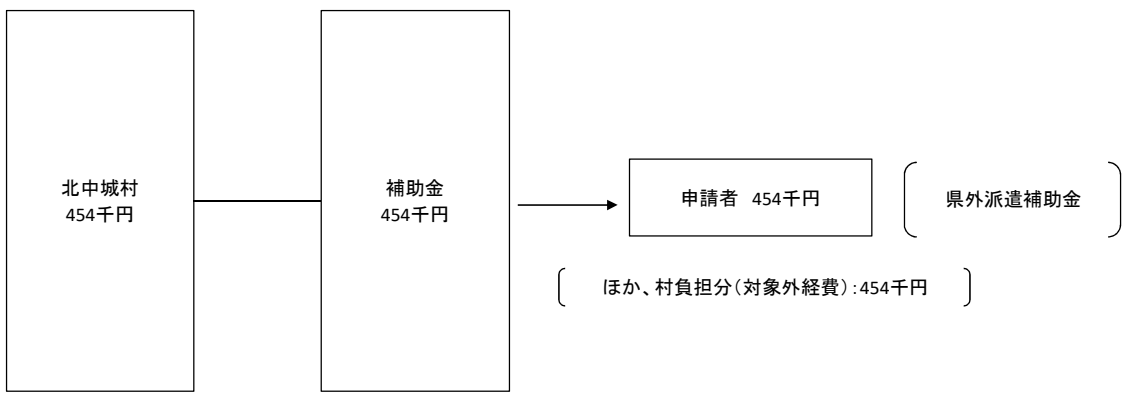
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による派遣大会中止等があり本事業活用機会が減少した過去3年間であったが、周知は右記のとおり継続していた為、活動目標を大幅に下回ることはなかった。 ・成果目標に関しては、参加費用の負担軽減をすることで、児童生徒に等しく県外大会への参加の機会を与え、児童生徒の健全育成・人材育成につながったことがアンケートに反映されたと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各種大会・文化活動の情報収集に努め、本事業による活動について、学校・スポーツ少年団・文化庁等への周知を図り、機会の創出に漏れがないようにする。

今後の取り組み方針

・ホームページ等の広報活動による周知を行うとともに、学校・スポーツ少年団・クラブチーム等との情報共有による事業周知を図る。保護者が多く集まる機会に本事業を周知する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
908	454	363	91	454



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先は、要綱等に則り交付決定を行っており、妥当であると考え。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額が発生したが、予算規模は適正であると考え。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○航空運賃以外は受益者にて負担しており、負担割合は妥当であると考え。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。

市町村名	北中城村						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	屋宜原地区避難道路整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-イ		
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	令和4年～令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	大規模災害等に備えた強くしなやかな県土づくりの推進 Ⅲ-10-(3)		
事業内容	北中城村の大型宿泊施設等へのアクセス道路である仲順屋宜原線について災害時の村民や観光客等の安全を確保し、災害に強い避難道路を築造するための予備設計として、道路線形検討、道路付帯構造物の検討を実施し、道路整備を検討する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和9年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,000				
		(b)予算現額	4,000				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	0				
	A. 計(b+d)		4,000				
	B. 執行済額		3,850				
	うち交付金充当額		3,080				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		96.3%				
予算の状況の説明		不用額150千円については、入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	道路線形の比較検討	目標	(検討)	()	()	()	
		実績	完了				
	道路付帯構造物の検討	目標	(検討)	()	()	()	
		実績	完了				
達成状況説明	道路線形において比較検討し、地形図の精度で検討を完了し、道路付帯構造物についても配置について完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(R9年度)
	道路線形・付帯構造物の検討完了	目標	()	(検討)	()	()	()
		実績		完了			
	【R9成果目標】 住民アンケート:整備した避難道路について、安心安全に利用できると答えた割合(80%以上)	目標	()	()	()	()	(80%以上)
		実績					
	進捗状況説明	道路線形及び道路付帯構造物の比較及び検討を実施し、おおむね道路線形が決定した。					

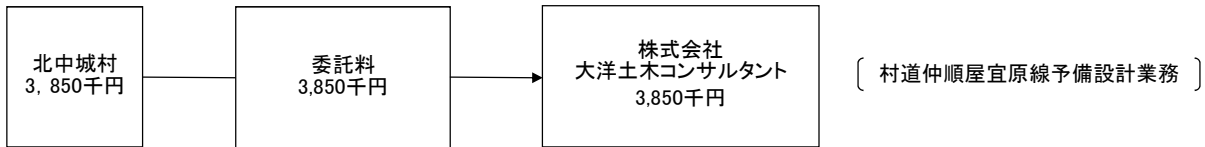
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>予備設計Aとして地形図レベルでの道路線形及び道路付帯構造物の比較及び検討を実施し、おおむね道路線形が決定した。次年度においては、現況測量を行い、検討精度を向上させ、令和6年度以降の実施設計へとつなげる必要がある。また、道路線形の検討により、用地買収が必要であるため、予備設計と合わせて、今後、用地補償業務も進めて行く必要がある。</p>	<p>令和5年度においては、国道との交差点設計調整や地権者等への説明も実施し、より利用しやすい道路整備を検討していく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

令和5年度においては、予備設計の精度を上げるとともに、国道との交差点設計調整や地権者等への説明も実施し、より利用しやすい道路整備を検討していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,850	3,850	3,080	770	0



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	